

6章

6.1	通則	60
6.2	安全	61
6.3	標的および標的基準	63
6.4	射場とその他設備	75
6.5	ゲージと測定器具	82
6.6	選手権大会の運営管理	84
6.7	競技用衣服および装備	87
6.8	競技ジュリーの任務と職務	90
6.9	組織委員会の任命する競技役員	92
6.10	競技会におけるE S T操作	94
6.11	競技会手順	97
6.12	選手およびチーム役員の行動ルール	102
6.13	故障	104
6.14	採点と成績手順	104
6.15	同点の順位決定（タイブレーク）	108
6.16	抗議（プロテスト）と上訴（アピール）	109
6.17	オリンピックのライフルおよびピストル種目のファイナル	111
6.18	書類様式（国内規定に準備）	128
6.19	索引	129

ルール番号

すべてのI S S Fルールはルール番号手順により4段階の番号（例：6.10.3.5）を限度に番号付けられている。

サブレベルのルールの追加が容易になるように中黒点で表記したルールも使用している。中黒点のルールを参照する場合はルール番号の後に中黒点ルールの順番を示すアルファベットを付けてある（例：6.10.3.5 d ルール6.10.3.5の4番目の中黒点ルールという意味）。

※については国内適用規定も参照のこと。

追は、国内適用のために追加した項目であり、国内適用規定を参照のこと。

定義と略号

以下は I S S Fゼネラルテクニカルルールと I S S Fライフル、ピストルルールに使われている特殊単語と略号の定義である。

単語	定義
選手 (Athletes)	スポーツ競技会の競技者または参加者。射撃スポーツにおける競技者は時には選手と呼ばれる。
選手権大会 (Championship)	複数の種目がプログラムされた1つの射撃競技大会。I S S Fルールの適用、テクニカルデレゲートとジュリーの派遣、アンチドーピング検査の実施によって I S S Fからの認定と監督を受けた大会は特に大文字のCを使って表す。
競技会 (Competition)	複数種目の選手権大会を含むスポーツ競技会または単独種目による大会。
射撃コース (Course of Fire)	種目の中の競技ステージの種類の一つ。各シリーズやステージにおける発射弾数、撃発のしかたや制限時間によって特徴づけられる。
C R O	Chief Range Officer : 射場長
種目 (Discipline)	種目 (Event)の共通な特徴で分けたグループ。射撃は4種類 (ライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲット)の種目 (Discipline) から構成される。
E S T	Electronic Scoring Targets : 電子標的
種目 (Event)	個別の進行方法とルールにより行われる特定の射撃種目。射撃は15種のオリンピック種目がある。I S S Fでは他にも個人・団体、少年などの年齢別を含め多くの種目を公認している。
F O P	Field Of Play : 競技場 射撃において、F O Pとは射撃線の後の競技中の選手への接近が制限される射座と競技役員が勤務をするエリアおよび射撃線から前の標的やバックストップまでの射場がそれに相当する。
本射 (MATCH Shots)	採点され記録される射撃弾。 選手の得点として数えられる射撃弾。
M i n .	分 (Minute、Minuts)
ラウンド (Round)	射撃種目における競技場面。射撃種目は予選ラウンド、本選ラウンド、ファイナルに場面分けされる。
S e c .	秒 (Second、Seconds)
シリーズ (Series)	射撃ステージや射撃コースの中での射撃順序。多くの射撃種目は10発シリーズで構成される。25mピストル種目では5発シリーズで構成される。
試射 (Sighting Shots)	射撃種目において、本射に先立って撃たれる練習またはウォームアップのための射撃弾
スポーツ (Sport)	共通の要素と一つの団体が統括するという事で区別される競技のこと。射撃は選手が銃で標的を撃ち、その得点で順位を競うという“スポーツ”である。I O Cは射撃を夏季オリンピック大会における28の実施スポーツの1つとして認めている。
ステージ (Stage)	射撃コースの中の一場面または一部分。ライフルの三姿勢種目はそれぞれの射撃姿勢の3つのステージから構成され、25mピストルでは精密射撃と速射の

	2つのステージから構成される。
開始時刻 (Start Time)	開始時刻は各射撃種目において本射の開始を告げる号令がかけられる時刻。

※6.1

通則

6.1.1

I S S Fルール目標と目的

I S S FはI S S Fの認可を受けて行われる射撃競技を監督統括する目的でテクニカルルールを制定している(GR3.3)。I S S Fテクニカルルールは全世界における射撃競技の運営の統一を確立することにより、射撃スポーツの発展を促進することを目的とする。

- ・射場基準、標的規格、採点手順、標準的な競技手順やファイナルのルールを含むI S S Fゼネラルテクニカルルール(GTR)はすべての射撃種目に適用される。種目別ルール(DR)はライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲットの4つの射撃種目でそれぞれに適用される。
- ※ ・GTRおよびDRはI S S F憲章に従って運営理事会により認可される。
- ・GTRおよびDRよりI S S F憲章およびGRが優先される。
- ・GTRおよびDRはオリンピック競技大会の翌年の1月1日より4年間有効となるように認可される。特別な場合を除いては、I S S Fルールはこの4年間に変更されない。

6.1.2

GTRおよびDRの適用

- ・I S S F選手権大会とは、オリンピック、世界選手権、ワールドカップ、ワールドカップファイナル、大陸選手権、大陸大会でI S S F GR3.2.1とこれらのルールに従い、I S S Fの監督下で行われる、射撃スポーツ競技会のことである。
- ・すべてのI S S F選手権大会にはI S S F GTRとDRが適用されなければならない。
- ・I S S Fは、I S S F選手権大会ではない地域、国内、その他の競技会であっても、I S S Fの種目が含まれている場合、I S S Fルールを適用することを推奨する。
- ・すべての競技役員、選手、コーチおよびチームリーダーはI S S Fルールを熟知し、ルールの効力を保証しなければならない。
- ・ルールに従うのは各選手の責任である。
- ・右利き選手に適用されるルールは、左利き選手の場合、その逆が適用される。
- ・男子種目または女子種目に特に適用されるルールの他は、双方に同等に適用されなければならない。
- ・図表内に示される数値等は通番のルールに等しい効力を持つものとする。

6.1.3

TRの範囲

TRに含まれるものは:

- ・I S S F選手権大会の準備と組織に関するルール
- ・射場の建設および設備計画に関するルール
- ・すべての射撃種目あるいは2つ以上の種目に適用されるルール

※6.1.4

I S S F選手権大会の組織と監督

※6.1.4.1

I S S Fによる監督 I S S F理事会は、I S S F憲章1.8.2.6およびGR3.4に従い、各I S S F選手権大会にI S S Fテクニカルデリゲート、ジュリー、技術役員を任命する。任命されるのは:

- ・テクニカルデリゲート
- ・競技ジュリー
- ・上訴ジュリー

- ・公式記録作成員：エントリー、選手の成績、競技進行、成績表の提出、成績表の保管に必要な電子技術を提供し、操作する責任を持つ。

6.1.4.2 **組織委員会** GR3.4.1に従って、各ISSF選手権大会では組織委員会が設置されなければならない。組織委員会は射撃競技会の準備、運営、管理に責任を持つ。組織委員会は次の役員を任命しなければならない。

- ・射場長、射場役員：射撃種目の実際の運営、管理に責任をもつ。
- ・審査長、審査補助員：エントリー、認定、選手権大会期間中の採点と成績作成に責任を持つ。
- ・用具検査長、用具検査役員：用具検査の実施に責任を持つ。
- ・ISSF選手権大会の組織委員会として責任を果たすために必要なその他すべてのスタッフ。

6.2 **安全**

安全は最重要課題である。

6.2.1 **安全通則**

※6.2.1.1 ISSFルールはすべてのISSF選手権大会に適用されなければならない特別な安全要件を定めたものである。ISSFジュリーと組織委員会は安全に対する責任を負う。

6.2.1.2 射撃場に必要かつ要求される安全性はそれぞれの国で異なっているので、さらなる安全規定を組織委員会は定めることができる。ジュリー、射場役員、チーム役員および選手は競技会中の特別の安全について助言しなければならない。

※6.2.1.3 選手、射場役員および観衆に対する安全を期するために射場内での銃器の運搬、行動等には常時細心の注意を払わなければならない。これには全員の自己規律を必要とする。この自己規律が不十分である場合は、ただちに正すように促すことは射場役員の義務である。また選手やチーム役員も射場役員による注意を実施することを補佐する義務を負う。

6.2.1.4 ISSFは、射場内の他の人たちの安全に対して重大な恐れを起こすような選手に関する情報を適格な機関から得た場合、その選手の競技会への参加受け入れを拒否できる。

6.2.1.5 安全確保のためにはジュリーまたは射場役員はいつでも射撃を中止させることができる。選手やチーム役員は、危険な行為や事故につながる事態を発見した場合はただちに射場役員またはジュリー報告しなければならない。

※6.2.1.6 用具検査係、射場役員またはジュリーは選手の用具(銃器を含む)を本人の許可なく本人の立会と認識のもとに手に取ることができる。しかしながら、安全の問題がかかわる時には、その行動は即座に取られなければならない。

6.2.2 **銃器取り扱い規則**

6.2.2.1 安全確保のため、すべての銃器はいついかなる時でも最大限の注意をもって取り扱われなければならない。競技中および練習中は射場役員の許可なしに銃器を射線から動かしてはならない。

※6.2.2.2 射座で空撃ちまたは射撃を認められているとき以外は、すべてのライフル、ピストルには常にセフティフラッグが挿入されていなければならない。セフティフラッグの目的は、銃の機関部が開放され弾が装填されていないことを、視覚的に明示することである。エアライフルやエア・ピストルに弾が装填されていないことを明示するためには、セフティフラッグは銃

身長よりも長くなければならない。

- ・このルールで要求されているにもかかわらずセフティフラッグを使用していなければ、ジュリーは銃器にセフティフラッグを挿入するように指導し、警告を与えなければならない。
- ・もしジュリーが警告を受けた後もルールにより要求されるセフティフラッグの使用を拒否している選手を確認した場合、その選手は失格とされなければならない。

6.2.2.3 射座において銃器は常に安全な方向に向けられていなければならない。機関部やブリーチは銃器が標的エリアの安全な方向に向けられるまで閉じられてはならない。

6.2.2.4 選手は銃を置いて射座を離れるときまたは射撃が完了したときには、銃の機関部（ボルトまたは閉鎖機構）を開放して抜弾し、セフティフラッグを挿入しなければならない。射座を離れる前に選手はそれを確認し、また射場役員は銃の薬室、銃身または弾倉内に残弾のないこととセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。

6.2.2.5 射場役員のチェックを受けずに、銃器を格納したり射座から持ち出した場合、その選手は失格となる場合がある。

6.2.2.6 競技中、銃器を手から離して置くときは、抜弾し、弾倉を取りはずし、機関部を開けてからのみ置くことができる。エアガンにあっては、安全のため蓄気レバーまたは装填口を開けたままにしなければならない。

6.2.2.7 射撃線の前方に作業員がいるときは銃器の取り扱いは許されずセフティフラッグが挿入されていなければならない。

6.2.2.8 射座以外の射場内では、射場役員の指示による場合を除き、銃器は銃ケースに入れておかななければならない。

6.2.3 射場内での号令

6.2.3.1 射場長または他の適切な射場役員は“LOAD”、“START”、“STOP”、“UNLOAD”や他の必要な号令を出す責任がある。射場役員は選手が号令に従っているか、銃器を安全に取り扱っているかを確認しなければならない。

6.2.3.2 銃器や弾倉には、射座において“START”または“LOAD”の号令の後にのみ装填できる。これ以外のときには銃器や弾倉は抜弾されていなければならない。

6.2.3.3 弾倉付きのライフルや50mピストルであっても、装填は一発しかできない。5連発エア・ピストルを10mエア・ピストル種目に使用する場合も、装填は一発ずつ行うこと。

6.2.3.4 選手が“LOAD”または“START”の号令の前、“STOP”または“UNLOAD”の号令の後に弾を発射した場合、その安全性が問われるならば、その選手は失格になる場合がある。

6.2.3.5 “STOP”の号令か信号があった場合、選手はただちに射撃を中止しなければならない。“UNLOAD”の号令があった場合、全選手は弾を抜き、安全な状態にしなければならない(エアガンを抜弾するときは、射場役員の許可を得ること)。“START”の号令が再び出されたときのみ射撃は再開できる。

6.2.4 安全性の追加要求

6.2.4.1 “空撃ち”とは弾が装填されてない銃器の引金機構を解き放つこと、または空撃ち機構が付いているエアガンで空気などを出すことなく撃発動作をすることを意味する。空撃ち、照準

練習は射撃線または指定された場所でのみ次のルールに従って許可される。

6.2.4.2 エアまたはCO₂シリンダーが保証期間内であることは選手の責任である。このことは用具検査でチェックされなければならない。

6.2.5 耳の保護

すべての選手、射場役員ならびに25m、50m、300m射場の射線直後に位置する人々は耳栓、イヤーマフまたは類似の聴力保護用具の使用を強く要請する。射場敷地内では、警告が明示され、すべての人々が聴力保護用具を使用できなければならない。選手はいかなるタイプの受信装置を組み込んだイヤープロテクターも使用できない。

6.2.6 目の保護

すべての選手に対して、射撃中は、強化ガラスなどの射撃眼鏡または類似の目に対する保護用具の使用を強く要請する。

6.3 標的および標的基準

6.3.1 標的の全般的必要条件

6.3.1.1 ISSF選手権大会のライフルおよびピストル種目で用いられる標的は電子標的（EST）または紙標的である。

6.3.1.2 すべての標的はこのルールによって与えられる各得点圏の幅、標的の大きさ、その他規定された値が守られていなければならない。

6.3.2 電子標的の必要条件

※6.3.2.1 電子標的はISSFによってテストされ、公認されたものだけが使用できる。

6.3.2.2 ESTにおける精度は弾着の採点において少なくとも小数点得点圏の半分の精度が要求される。紙標的における得点圏の大きさに関する許容範囲はESTには適用されない。

6.3.2.3 すべてのEST標的装置は、それぞれの競技に使用される標的の黒圏の大きさ（6.3.4）に相当する黒色の照準エリアおよびその照準エリアを取り囲む無反射の白または黄色がかった白色のエリアが表示されていなければならない。

6.3.2.4 ESTによって記録された得点は競技用標的（6.3.4）の得点圏の大きさに従って決定されなければならない。

6.3.2.5 ESTに当たった弾ごとに、その弾の結果としてその位置と得点が射座のモニター上に提示されなければならない。

6.3.2.6 10mESTでは、発射された弾が標的に当たったかどうかの決定ができるように紙ロールまたは証拠となる他の素材のストリップが使われていなければならない。

6.3.2.7 ESTシステムのメインコンピューター（バックアップメモリー）以外のメモリーからの各選手の結果のプリントアウトは競技中および競技後すぐに利用できなければならない。

6.3.2.8 ESTを使用するとき、標的装置は、各ISSF選手権大会に先立ってテクニカルデレゲートの監督のもと、通常の使用条件で正確な採点をしていることを確認するためのチェックを受けなければならない。

6.3.3 紙標的の必要条件

※6.3.3.1 ISSF選手権大会に用いる紙標的は大会の行われる少なくとも6ヶ月前にそれぞれの見本5部をISSF事務総長に送付してISSF規格に適合するか否かの認定を受けなければならない。

6.3.3.2 すべての標的は、各 I S S F 選手権大会の開始前に、テクニカルデレゲートによりその紙質と規格寸法の再検査を受ける。認定されたものと同じ標的のみ、使用することができる。

6.3.3.3 標的は 6.3.5 の規格に適合した採点ゲージによって採点されるかまたは I S S F の公認した電子標的採点システムによって採点される。

6.3.3.4 標的紙は無反射性の色と紙質のものとし、規定の距離における通常の光線条件の下で黒点圏がはっきりと視認できるものでなければならない。紙質や印刷された得点圏はどのような気象条件下においても、その寸法を保持するものでなければならない。紙質は過大な破断やゆがみを生じることなしに、弾痕をとどめるものでなければならない。

6.3.3.5 各得点圏の寸法は、各圏線の外側の縁より測定される。

※6.3.3.6 I S S F 選手権大会では標的紙に 1 つだけ黒点圏のあるものが認められる。

6.3.3.7 標的は各圏線により各得点圏に分けられる。

6.3.4 標的および標的基準

標的はこのルールにある得点圏の大きさ、許容範囲、仕様を守らなければならない。

- ・ライフルとピストルの標的は整数値で採点できるかまたは E S T を使用する場合は小数値で採点できなければならない。小数値の得点圏は整数値の得点圏を 10 等分したもので、その得点は 0（例：10.0、9.0 など）から始まり 9（例：10.9、9.9 など）で終わるものである。
- ※ ・ライフルとピストルの予選ラウンドおよび本選ラウンドでは、10mエアライフルと 50mライフル伏射の種目の予選ラウンドおよび本選ラウンドを小数値で採点する仮措置の場合を除き、整数値で採点される。注：理事会では本選を小数値で行う試合を検証し、これをルールに採用するかの決定を 2013 年の終わりに下す。
- ・ライフルとピストルのファイナルは、ヒットミススコアが使用される 25mピストル種目のファイナルを除き、小数値で採点される。

※6.3.4.1

300mライフル標的

10点圏	100mm	(±0.5mm)	5点圏	600mm	(±3.0mm)
9点圏	200mm	(±1.0mm)	4点圏	700mm	(±3.0mm)
8点圏	300mm	(±1.0mm)	3点圏	800mm	(±3.0mm)
7点圏	400mm	(±3.0mm)	2点圏	900mm	(±3.0mm)
6点圏	500mm	(±3.0mm)	1点圏	1000mm	(±3.0mm)

X圏：50mm (±0.5mm)

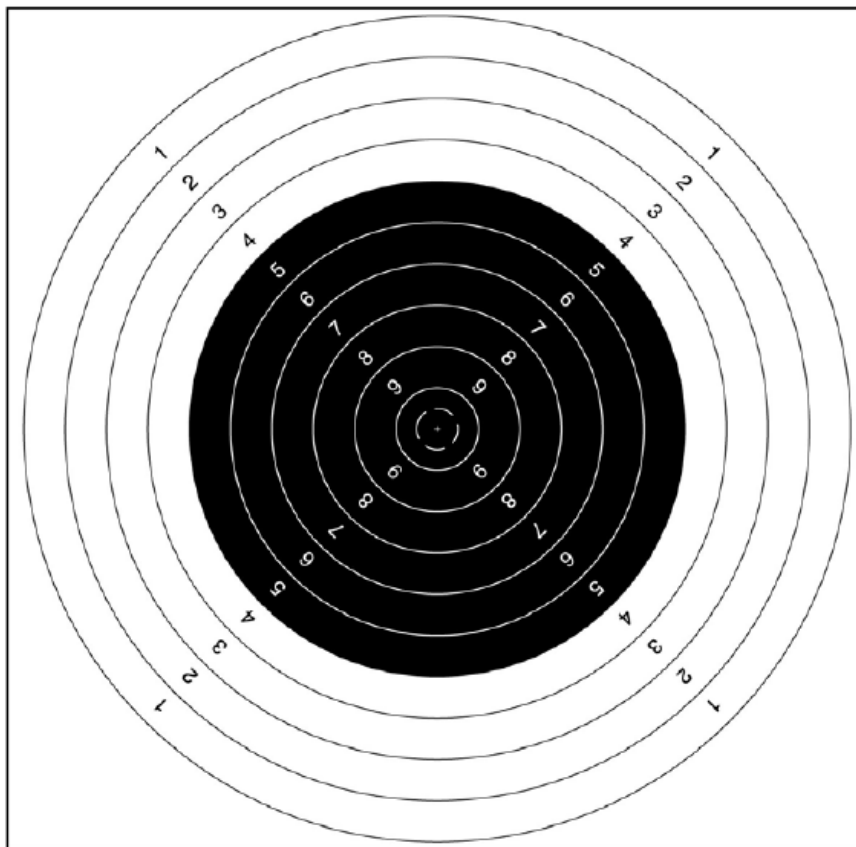
黒点圏 (5～10点圏)：600mm (±3.0mm)

圏線の幅：0.5mm～1.0mm

標的紙の大きさ：最小1300mm×1300mm

(標的紙と同色の的枠を使用する場合は1020mm×1020mm)

1点～9点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが斜めの対角線をなす位置に印刷される。10点圏には数字の印刷はない。



300mライフル標的

※6.3.4.2

50mライフル標的

10点圏	10.4mm	(±0.1mm)	5点圏	90.4mm	(±0.5mm)
9点圏	26.4mm	(±0.1mm)	4点圏	106.4mm	(±0.5mm)
8点圏	42.4mm	(±0.2mm)	3点圏	122.4mm	(±0.5mm)
7点圏	58.4mm	(±0.5mm)	2点圏	138.4mm	(±0.5mm)
6点圏	74.4mm	(±0.5mm)	1点圏	154.4mm	(±0.5mm)

X圏：5mm (±0.1mm)

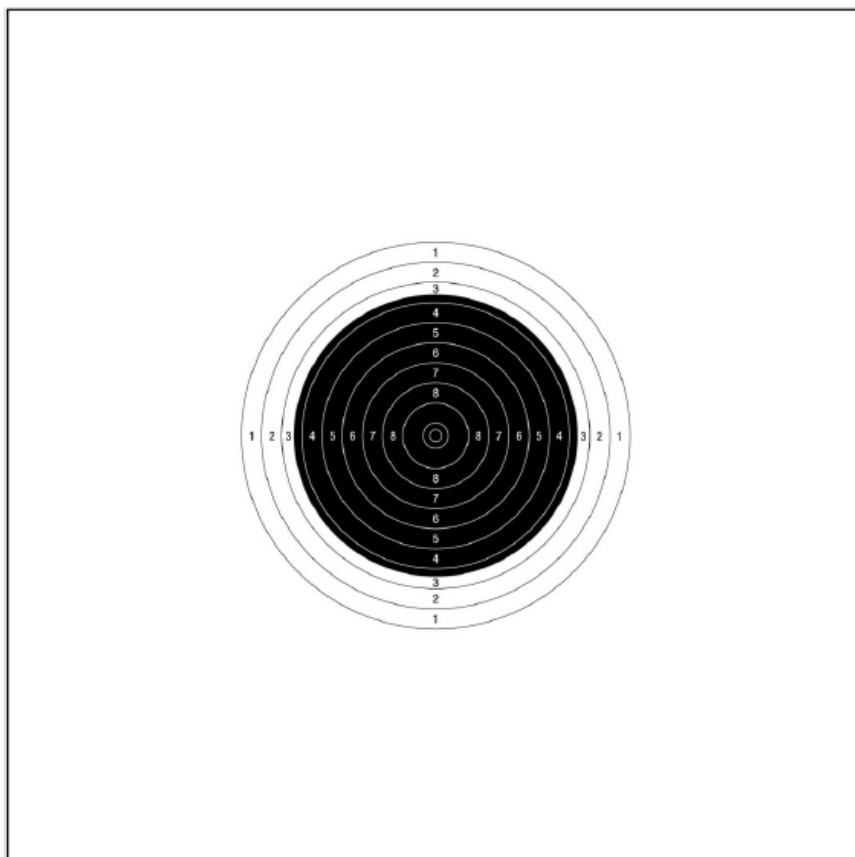
黒点圏（3点の一部～10点圏）：112.4mm (±0.5mm)

圏線の幅：0.2mm～0.3mm

標的紙の大きさ：最小250mm×250mm

1点～8点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。10点圏、9点圏には数字の印刷はない。

インサート標的（200mm×200mm）は使用できる。



50mライフル標的

※6.3.4.3

10mエアライフル標的

10点圏	0.5mm	(±0.1mm)	5点圏	25.5mm	(±0.1mm)
9点圏	5.5mm	(±0.1mm)	4点圏	30.5mm	(±0.1mm)
8点圏	10.5mm	(±0.1mm)	3点圏	35.5mm	(±0.1mm)
7点圏	15.5mm	(±0.1mm)	2点圏	40.5mm	(±0.1mm)
6点圏	20.5mm	(±0.1mm)	1点圏	45.5mm	(±0.1mm)

X圏: 10点圏を完全に撃ちぬいた時、エア・ピストル外線ゲージを用いて決定する。

黒点圏 (4~9点圏): 30.5mm (±0.1mm)

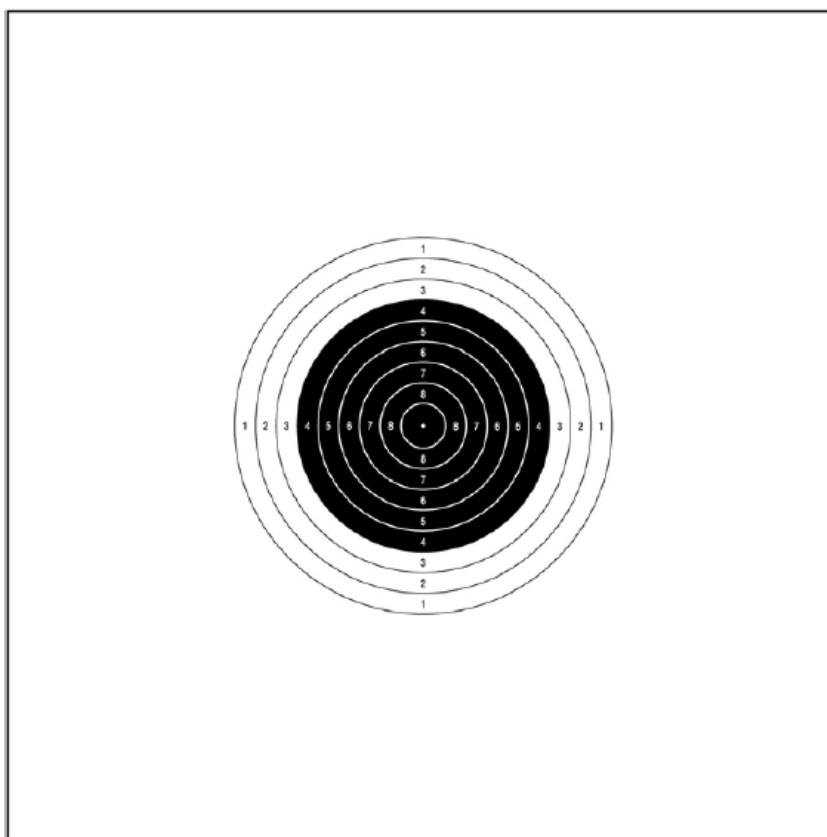
白点で表示される10点圏: 0.5mm (±0.1mm)

圏線の幅: 0.1mm ~ 0.2mm

標的紙の大きさ: 最小80mm×80mm

1点~8点の得点はそれぞれの得点圏の中にそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。9点圏には数字の印刷はない。10点は白点である。

標的を見やすくするために、標的の後ろに使う170mm×170mmの大きさで、標的の紙質や色に類似した台紙が提供されるべきである。



10mエアライフル標的

※6.3.4.4

25mラピッドファイアピストル標的

(25mラピッドファイアピストル、25mセンターファイアピストルと25mピストルの速射ステージ用)

10点圏	100mm	(±0.4mm)	7点圏	340mm	(±1.0mm)
9点圏	180mm	(±0.6mm)	6点圏	420mm	(±2.0mm)
8点圏	260mm	(±1.0mm)	5点圏	500mm	(±2.0mm)

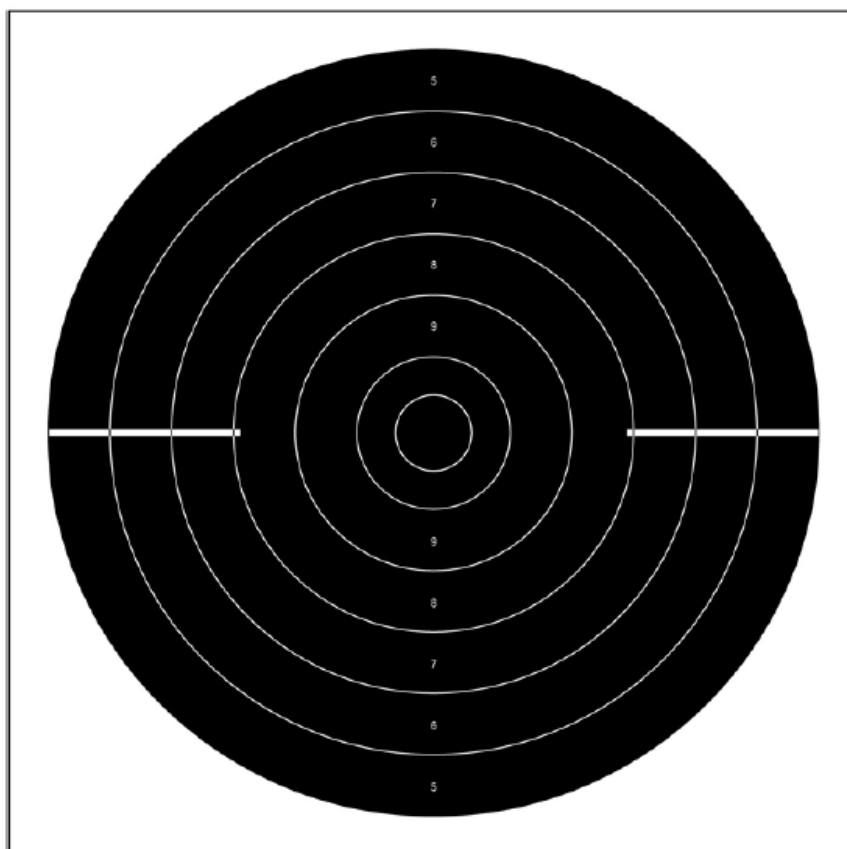
X圏：50mm (±0.2mm)

黒点圏 (5～10点圏)：500mm (±2.0mm)

圏線の幅：0.5mm～1.0mm

標的紙の大きさ：最小 幅550mm 高さ520mm～550mm

5点～9点の得点はそれぞれの得点圏の中に垂直をなす位置のみに印刷される。10点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは約5mm、太さは約0.5mmでなければならない。黒点圏の左右の方向には数字に代わって白色の水平照準ラインがある。このラインは長さ125mm、幅5mmとする。



25mラピッドファイアピストル標的

※6.3.4.5

25m精密／50mピストル標的

(50mピストル、25mスタンダードピストル、25mセンターファイアピストルと25mピストルの精密射撃ステージ用)

10点圏	50mm	(±0.2mm)	5点圏	300mm	(±1.0mm)
9点圏	100mm	(±0.4mm)	4点圏	350mm	(±1.0mm)
8点圏	150mm	(±0.5mm)	3点圏	400mm	(±2.0mm)
7点圏	200mm	(±1.0mm)	2点圏	450mm	(±2.0mm)
6点圏	250mm	(±1.0mm)	1点圏	500mm	(±2.0mm)

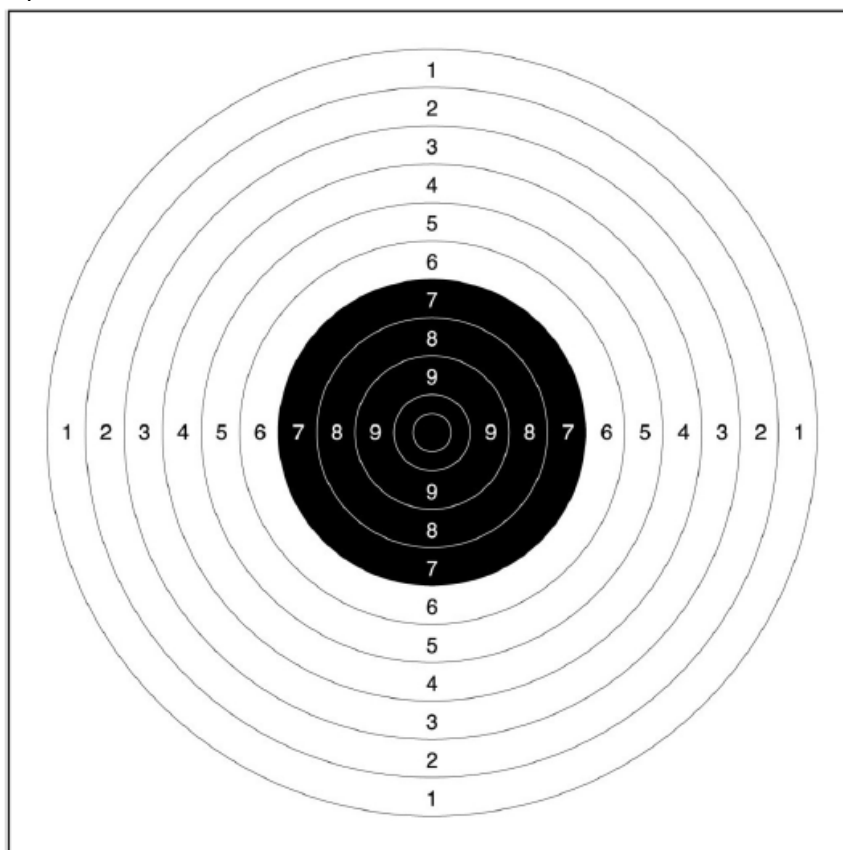
X圏：25mm (±0.2mm)

黒点圏 (7～10点圏)：200mm (±1.0mm)

圏線の幅：0.2mm～0.5mm

標的紙の大きさ：最小 幅550mm 高さ520mm～550mm

1点～9点の得点はそれぞれの得点圏の中のそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。10点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは約10mm、太さは約1mmで、規定の距離から通常の監視のスコップで容易に読み取れるものでなければなら



25m精密／50mピストル標的

※6.3.4.6

10mエア・ピストル標的

10点圏	11.5mm	(±0.1mm)	5点圏	91.5mm	(±0.5mm)
9点圏	27.5mm	(±0.1mm)	4点圏	107.5mm	(±0.5mm)
8点圏	43.5mm	(±0.2mm)	3点圏	123.5mm	(±0.5mm)
7点圏	59.5mm	(±0.5mm)	2点圏	139.5mm	(±0.5mm)
6点圏	75.5mm	(±0.5mm)	1点圏	155.5mm	(±0.5mm)

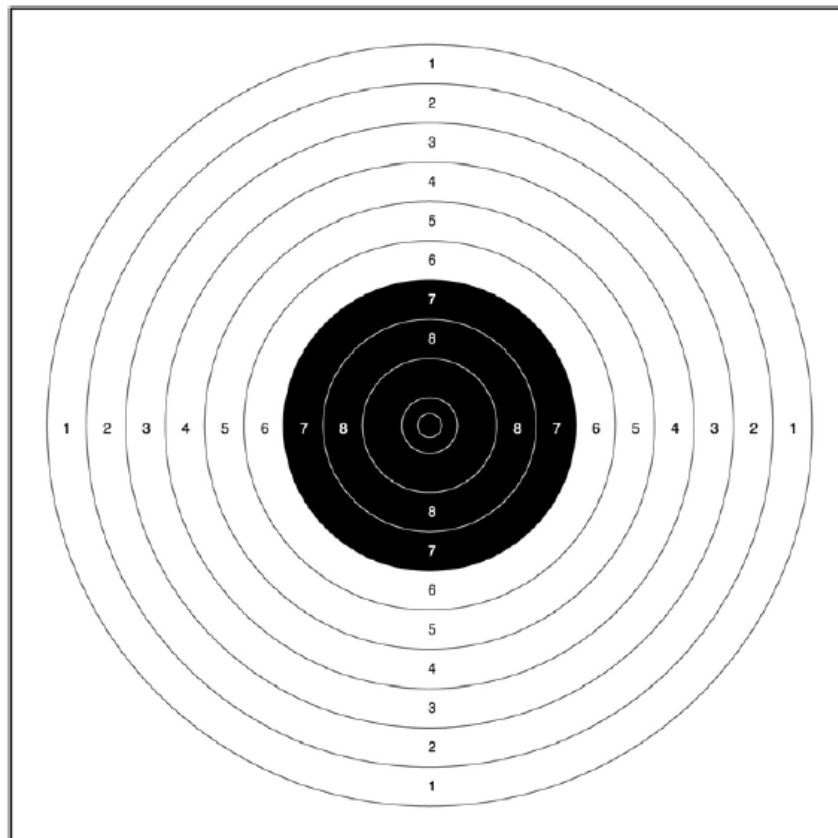
X圏：5.0mm (±0.1mm)

黒点圏（7～10点圏）：59.5mm (±0.5mm)

圏線の幅：0.1mm～0.2mm

標的紙の大きさ：最小170mm×170mm

1点～8点の得点はそれぞれの得点圏の中のそれぞれが垂直・水平をなす位置に印刷される。9点圏、10点圏には数字の印刷はない。数字の縦の長さは2mm以内でなければならない。



10mエア・ピストル標的

追6.3.4.7

150mライフル標的

追6.3.4.8

100mライフル標的

追6.3.4.9

その他ビッグボアライフル標的

- 追 6.3.4.10 10mビームライフル標的
- 追 6.3.4.11 10mビームピストル（デジタル）標的
- 追 6.3.4.11-2 10mビームピストル（ビーム）標的

6.3.5 採点ゲージとその使用法

紙標的を使用するときは、得点の疑わしい弾痕の採点には採点ゲージが使用されなければならない。採点ゲージは以下の必要条件を守らなければならない。

6.3.5.1 25mセンターファイアピストル

つばの直径	9.65mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	それぞれの弾径に合った太さ
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	センターファイアピストル種目

※6.3.5.2 300mライフル

つばの直径	8.00mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	それぞれの弾径に合った太さ
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	300mライフル種目

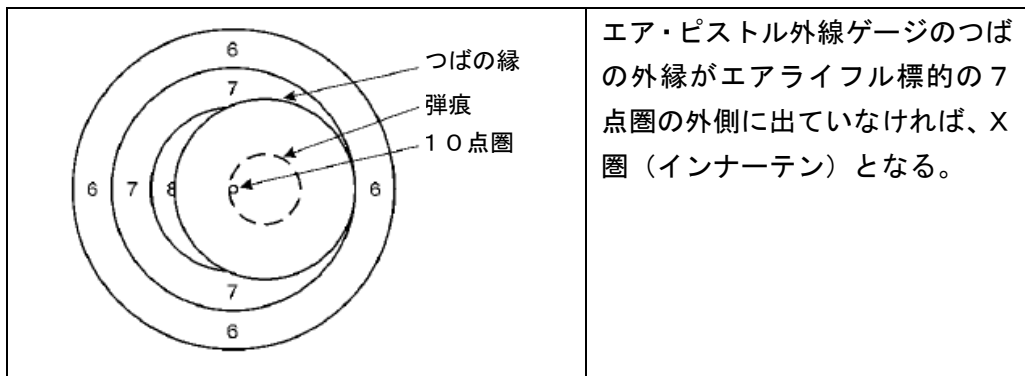
6.3.5.3 スモールポアライフル&ピストル5.6mm(22口径)

つばの直径	5.60mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	5.00mm (+0.05mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	5.6mm弾を使用するすべての種目

6.3.5.4 4.5mm内線ゲージ

つばの直径	4.50mm (+0.05 ~ -0.00mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	つばの直径マイナス0.02mm (4.48mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	エアライフル種目の1点および2点圏の判定 エア・ピストル種目の1点圏の判定

6.3.5.5 エア・ピストル外線ゲージによるエアライフルのX圏の判定

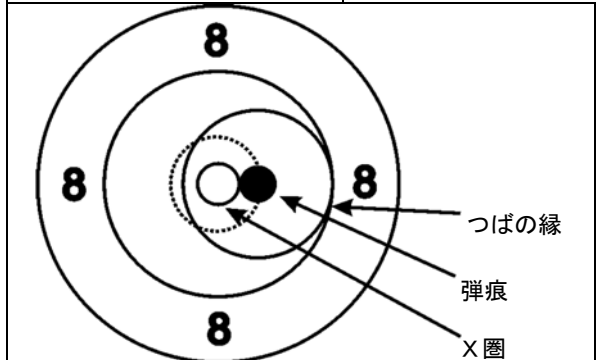


エア・ピストル外線ゲージのつばの外縁がエアライフル標的の7点圏の外側に出ていなければ、X圏（インナーテン）となる。

6.3.5.6

エア・ピストルX圏外線ゲージによるエア・ピストルのX圏の判定

つばの直径	18.0mm (+0.00 ~ -0.05mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	4.60mm (+0.05mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	エア・ピストル種目のX圏の判定



エア・ピストルX圏外線ゲージのつばの外縁がエア・ピストル標的の9点圏の外側に出ていなければ、X圏（インナーテン）となる。

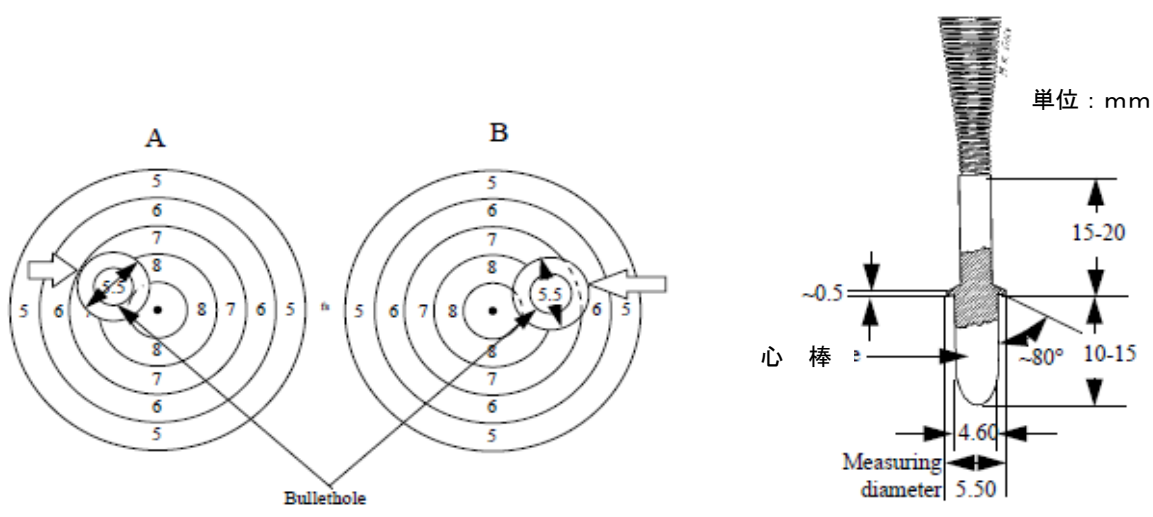
6.3.5.7

10mエアライフル用4.5mm外線ゲージ

つばの直径	5.50mm (+0.00 ~ -0.05mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	4.60mm (+0.05mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	10mエアライフル種目の3~10点圏の判定

6.3.5.8

エアライフル外線ゲージの使用法



弾 痕

A : つばの外側の縁が7点圏の内側にあるので、得点は9点となる。

B : つばの外側の縁が7点圏を超えて6点圏にあるので、得点は8点となる。

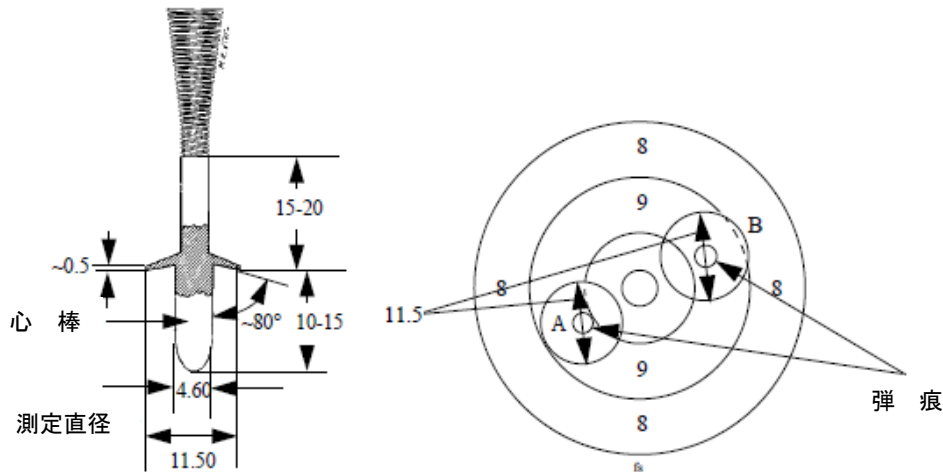
6.3.5.9

10mエア・ピストル用4.5mm外線ゲージ

つばの直径	11.50mm (+0.00 ~ -0.05mm)
つばの厚さ	約0.50mm
心棒の直径	4.60mm (+0.05mm)
心棒の長さ	10mm ~ 15mm
使用される種目	10mエア・ピストル種目の2~10点圏の判定

6.3.5.10

エア・ピストル外線ゲージの使用法



A : つばの外側の縁が9点圏の内側にあるので、得点は10点となる。

B : つばの外側の縁が9点圏を超えて8点圏にあるので、得点は9点となる。

6.3.5.11

スキッドゲージ

スキッドゲージとは透明なプラスチック板の片面に2本の平行線が刻印された物をいう。

・25mセンターファイアピストル(9.65mm口径)では11.00mm(+0.05mm ~ -0.00mm) 間隔の2本の平行線の内縁の間で測定する。

・スモール・ボア種目(5.6mm口径)では7.00mm(+0.05mm ~ -0.00mm) 間隔の2本の平行線の内縁の間で測定する。(25m5.6mm口径のピストル種目に使用される。)

6.3.6

標的コントロールシステム

ライフルおよびピストル種目では、競技会運営の助けとして標的採点およびコントロールシステムを使用しなければならない。

6.3.6.1

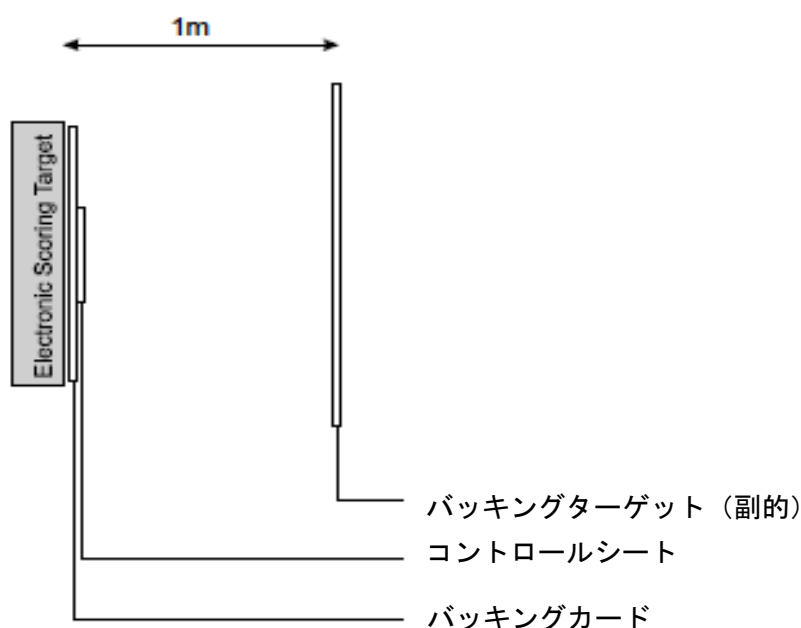
紙製の試射的

試射的には右上隅に明瞭な黒い斜線を入れなければならない。その斜線は通常の光条件下で規定の距離から肉眼ではっきりと見えるものでなければならない(25mラピッドファイアピストル用を除く)。

※6.3.6.2

EST 標的コントロールシステム

EST用のコントロールシステムとして、バックングターゲット(副的)、バックングカード、コントロールシートが使われる(図参照)。



6.3.6.3

50mおよび300mESTのバックングターゲット(副的)

誤射の位置判定のため、標的の後方でできれば0.5m~1mの位置に設置されたバックングターゲットを使用しなければならない。標的とバックングターゲットとの距離は正確に測定され、記録されなければならない。この距離は可能な限り全標的で同じでなければならない。

6.3.6.4

25mESTのバックングターゲット(副的)

- ・すべての25mピストル種目において、標的を外した弾痕の特定を助けるためにバックングターゲットが使用されなければならない。
- ・バックングターゲットの大きさは、最小限、25mピストル標的枠(5的分)の巾と高さのカバーするものでなければならない。バックングターゲットは同様に標的の1m後方に設置されるべきである。バックングターゲットは標的と標的の間に撃ち込まれた弾を認識するために、横に連続しているか、あるいは枠と枠の間にすき間のないものでなければならない。
- ・25mEST用のバックングターゲットは標的の白い部分と似た色の非反射紙で作られていなければならない。
- ・25m種目では選手ごと、ステージごとに新しいバックングターゲットが提供されなければならない。

6.3.6.5

25mESTのコントロールシート

ESTの直後の範囲はコントロールシートによって覆われていなければならない。新しいコントロールシートが選手ごと、ステージごと供給されなければならない。もしコントロールシートの外に弾痕があった場合、コントロールシートが取り外される前にコントロールシートとバックアップカードの弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。

6.3.6.6 50mおよび300mESTのバックアップカードとコントロールシート

すべての50mおよび300mESTの背面にはバックアップカードが装着されていなければならない。小形の交換可能なコントロールシートがバックアップカードに取り付けられているべきである。コントロールシートまたはバックアップカードは各射群ごとに交換され、回収されなければならない。もしコントロールシートの外に弾痕があった場合、コントロールシートが取り外される前にコントロールシートとバックアップカードの弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。

※6.4 射場とその他設備

6.4.1 全般的必要条件

6.4.1.1 ISS選手権大会における射場設置の最小必要条件はGR3.5.1に示すとおりである。それらの条件は最小限のものであり、ライフル／ピストルの大規模なワールドカップ大会においては、10m射場、50m射場ともに80射座を推奨する。

6.4.1.2 世界選手権大会やオリンピックでは独立したライフル／ピストル種目のファイナル射場が要求される。ISSFとしてはワールドカップにおいても独立したファイナル射場が利用できることを推奨する。

6.4.1.3 大陸連合は大陸選手権大会における最小限の射場必要条件を決めておかなければならない。

6.4.1.4 トラップ射場とスキート射場は合体させることができる。独立したダブルトラップ射場が提供できない場合はトラップ射場をダブルトラップ射場に転用しなければならない。できるならば、トラップ、ダブルトラップ、スキートのファイナルは同じ射場で行われるべきである。

6.4.1.5 ライフルおよびピストル射場で選手、役員、観客が使用する場所は日光、風、雨を防ぐ物で覆われていなければならない。これらの覆いは特定の射座や射場の一部に明らかに有利となるものであってはならない。

6.4.1.6 10m射場は屋内に設置されなければならない。

6.4.1.7 ISSFは、新設射場においては障害者にも利用可能なものとすることを推奨する。既存の射場においては障害者が利用可能となるように改修すべきである。

6.4.1.8 世界選手権大会やオリンピック大会に使用される射撃場は少なくとも1年前に完成していることが望ましい。

6.4.1.9 オリンピック大会、ISSF世界選手権大会、ISSFワールドカップ大会のライフルおよびピストル種目の予選、本選、ファイナルではISSFによって公認された電子標的(EST)が使用されなければならない。

6.4.1.10 テクニカルデレゲートは射場およびその他の設備がISSFルールに合致していることを確認する検査に責任を負い、選手権大会実施の準備を行う。テクニカルデレゲートは編成、射場、設備の検査に“テクニカルデレゲート用チェックリスト”(ISSF本部に用意してある)を利用すべきである。

6.4.1.11 テクニカルデレゲートは、射距離と標的の規格を除き、ISSFの主旨と精神に反するも

のでなければ若干の規格変更を承認してもよい。

6.4.2 全般および運営上の設備

次の設備が設置されているかまたは射撃場の近くになければならない。

- ・選手がリラックスでき、着替えをするのに十分な広さを持った選手控室。
- ・本選射場およびファイナル射場の近くにある選手のための更衣室。
- ・ISSF役員、委員、ジュリーの利用するミーティングルーム。
- ・採点および成績表の作成のための部屋および標的やその関連物品の倉庫。
- ・公式記録や告知を掲示するためのメインスコアボード1面および速報を掲示するための射場スコアボードを射場ごとに1面。さらに選手控室の近くにもスコアボードがあるべきである。
- ・安全な銃器保管庫。
- ・更衣室を備えた用具検査室。
- ・適切な作業台とバイスを備えた銃器修理店舗。
- ・銃器や用具メーカーが製品サービスを行うための無料仮店舗。
- ・商品展示用のスペース。出店料金を課することができる。
- ・休息のとれる食堂または食料提供施設。
- ・十分な数のトイレ。
- ・無線インターネットサービス。可能であるならば、競技会進行（成績提供、ISSF-TV、管理運営）に関するものと一般用は別々の回線とすべきである。
- ・表彰会場。
- ・メディア、ラジオ、テレビ取材者のための設備。
- ・適切な規模の医務室とトイレを備えたアンチドーピングコントロール施設。
- ・駐車場

6.4.3 300m、50m、25m、10mのライフルおよびピストル射場の全般基準

6.4.3.1 新しく屋外射場を建設する場合は、できる限り競技の間、選手の背後に太陽が位置するように設計されるべきである。標的に影が入らないように配慮しなければならない。

6.4.3.2 射場には標的線と射撃線が設置され、それらは平行でなければならない。

6.4.3.3 射場のデザインと建設は次の特徴を持っているとよい。

- ・危害防止の見地から、必要ならば、射場の周囲に壁をめぐらせてもよい。
- ・暴発等による射撃場からの流れ弾に対する安全策として、射撃線と標的線との間に、射場を横断するバツフルを設置することもできる。
- ・50m、25m射場については屋外設置であるべきであるが、法的な要請、気候による必要性がある場合には例外的に屋内または閉鎖された環境下に設置できる。
- ・300m射場では少なくとも290mの距離を屋外とする。
- ・50m射場では少なくとも45mの距離を屋外とする。
- ・25m射場では少なくとも12.5mの距離を屋外とする。
- ・ファイナル射場はインドア射場でもアウトドア射場でもよい。

6.4.3.4 射座の後方に射場役員およびジュリーが活動するために十分な空間を設けなければならない。観客のための空間も設けなければならない。この空間は少なくとも射撃線の後方5m以

上の位置に設置された適当な柵などによって選手や役員の活動する空間とは区別されなければならない。

※6.4.4.3.5 各射場の両端に選手や役員がはっきりと時刻を見ることができる大型の時計を備えなければならない。ファイナル射場として区分された場所にも時計がなければならない。射場の時計は成績用コンピューターによって同じ時刻が示されるように同調されていなければならない。ライフルとピストルのファイナル射場には残り時間を示すカウントダウン時計もなければならない。

6.4.4.3.6 標的枠または標的装置には正対する射座と同じ（左から始まる）番号が付けられていなければならない。それらの番号は通常の射撃条件で規定の距離から容易に確認できる大きさでなければならない。それらの番号は対照的な色で交互に塗られ、競技中は標的が現れている時もない時も明瞭に見えるものでなければならない（300m射場はそうでなければならない）。25m射場の5的の標的グループは左から順に“A”から始まる文字がつけられなければならない。25m射場の各標的は、AとBグループの標的には11から20を、CとDグループの標的には21から30というように番号が付けられなければならない。

6.4.4 300mライフル、50m射場の風旗

6.4.4.1 射場の空気の動きを示すために綿布製またはポリエステル製で重量約150g/m²の長方形の風旗が設置されているべきである。風旗の高さは弾の飛行や選手が標的を見る際の妨げになることなく弾道線の中心域に対応しなければならない。風旗の色は背景に対し目立つ色でなければならない。2色を使用したものや縞模様の風旗の設置は許されるし、推奨されるものである。

6.4.4.2 風旗の大きさと設置場所

射 場	設 置 距 離	風 旗 の 大 き さ
50m射場	10mおよび30m	50mm×400mm
300m射場	50m	50mm×400mm
	100mおよび200m	200mm×750mm

※6.4.4.3 50m射場では、風旗は射撃線から規定の距離の位置に各射座を分ける射撃線より標的線までの仮想線上に設置される。風旗はバツフルの選手側の位置に設置されなければならない。

※6.4.4.4 50m射場を屋内10m射場として使用する場合は、風旗が風を提示できるように10m地点の風旗は射屋から十分離れた遠くに設置されなければならない。

6.4.4.5 300m射場では、風旗は射撃線から上記の距離の位置に4射座ごとに次の射座との境界線となる射撃線より標的線までの仮想線上に設置される。風旗はバツフルの選手側の位置に設置されなければならない。

6.4.4.6 選手は、準備試射時間の始まる前に、風旗が標的を見えにくくしているかを確認しなければならない。風旗の位置は射場役員またはジュリーのみが変更できる。

6.4.4.7 個人の用意した風向計等の使用および選手による風旗の位置の変更は禁止される。

6.4.5 射距離

6.4.5.1 射距離は射撃線から標的面までの距離を測定したものでなければならない。

※6.4.5.2 射距離は以下の許容差を条件として、できる限り正確でなければならない。

300m射場	±1.00m
50m射場	±0.20m
25m射場	±0.10m
10m射場	±0.05m

6.4.5.3 50mのライフル、ピストル、ランニングターゲット兼用射場の許容差 略

※6.4.5.4 射撃線は明瞭に示されていなければならない。射距離は標的線から射撃線の選手側の端までの距離が計測されなければならない。選手の足または伏射姿勢での選手の肘を射撃線上に置いたり、射撃線を越えて標的側に置くことはできない。

6.4.6 **標的中心位置**

標的中心位置とは標的の10点圏の中心の位置を計測したものでなければならない。

※6.4.6.1 **標的中心の高さ**

標的の中心は射座の床面の高さから測って次の表の通りでなければならない。

射 場	基準の高さ	許 容 差
300m射場	3.00m	±4.00m
50m射場	0.75m	±0.50m
25m射場	1.40m	+0.10m/−0.20m
10m射場	1.40m	±0.05m

標的群または射場内のすべての標的の中心の高さは同じでなければならない(±1cm)。

※6.4.6.2 **300m、50m、10mライフル、ピストル射場における標的中心位置の水平方向での許容差**

300m、50m、10mでの標的の中心は、正対する射座の中心におかれていなければならない。射座の中心の射撃線から直角方向での標的の中心線との水平方向の許容差は

射 場	中心から両方向への最大許容差
300m射場	6.00m
50m射場	0.75m
10m射場	0.25m

6.4.6.3 **25mピストル射場における射座の位置の水平方向での許容差**

射座の中心は次の位置になければならない。

- ・ラピッドファイヤ射場では5つの標的群の中心。
- ・射座の中心は、正対する標的の中心に置かれていなければならない。標的の中心線から直角方向での射座の中心線との水平方向の許容差は

射 場	両方向への最大許容差
25m射場	0.75m

※6.4.7 **ライフルおよびピストル射場の射座の全般基準**

射座は振動したり動いたりしない安定した、堅い、頑丈な構造のものでなければならない。射撃線から後方約1.20mまでの部分は全方向に対し水平でなければならない。それより後方の部分は水平または後方に向かって数cmの勾配をつけたもののどちらかでなければ

ならない。

6.4.7.1 射撃テーブル上から射撃を行う場合、そのテーブルは長さ約2.20mで幅0.80mから1.00m、頑丈で安定したもので、移動ができるものでなければならない。射撃テーブルは後方へ最大10cm傾斜していてもよい。

6.4.7.2 **射座の備品** 射座には次のものが備えられていなければならない。

- ・高さ0.70m～1.00mの机または台1脚。
- ※ 伏射、膝射用のマット1枚。マットの前部分約50cm×80cmの部分は50mm以内の厚さで圧縮性のある材質のもので、なおかつ服装検査用の測定器で測ったとき10mm以上の厚さのものでなければならない。マットの他の部分は最大で50mm最低でも2mmの厚さでなければならない。マット全体は最小でも80cm×200cmの大きさがなければならない。別の方法として、薄いマットと厚いマットの2種類を用意してもよいが、本規則に合致するものでなくてはならない。私物のマットの使用は禁止される。
- ・本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け1脚；ファイナル射場においては射座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。
- ・新設の射場では射撃線前方に位置する防風スクリーンの設置は推奨されない。しかし風の条件ができるだけ射場全体で均一になるようにする必要があるときは、防風スクリーンを使用してもよい。
- ・紙標的が使用される場合、記点係用の机と椅子各1脚と監的用スコープ1台が用意されなければならない。
- ・紙標的が使用される場合、記点手が観客に選手の得点を仮発表するための約50cm×50cmのスコアボード1枚。スコアボードは、観客が選手を見るのに邪魔にならないところで、観客が容易に見ることができる位置にあるべきである。
- ・300m射場の射撃線で仕切りスクリーンを設置する必要がある場合、そのスクリーンは軽いフレームに向こう側が透けて見える材質で作られるべきである。スクリーンは射撃線の前方へ少なくとも50cmは突出し、約2.00mの高さがあるべきである。

※6.4.8 **300m射場の射座基準**

射座は幅1.60m以上、長さ2.50m以上でなければならない。射座幅については縮小してもよいが、仕切りスクリーンを設置する場合、伏射姿勢をとった選手の左足が隣の射座に入るのを妨げるような設置のしかたをしてはいけない。

6.4.9 **50m射場の射座基準**

- ・射座は幅1.25m以上、長さ2.50m以上でなければならない。
- ・射座は、300m射撃と兼用されるならば、幅1.6m以上でなければならない。

6.4.10 **10m射場の射座基準**

- ※ 射座の幅は1.00m以上なければならない。
- ・机または台の選手に近い側の端は、10m射撃線の10cm以上前方に位置しなければならない。
- ※ 電子標的が設置されていない10m射場では電動標的キャリアー、電動標的交換装置が設置されていないなければならない。

6.4.11 **25mピストル射場の射場および射座基準**

- 6.4.11.1 25m射場には風、雨、日光や葉莢の射出から選手を十分に防護するための屋根とスクリーンが設置されなければならない。
- 6.4.11.2 射座には床面から最低2.20mの高さの屋根または覆いをかけなければならない。
- 6.4.11.3 25m種目においては、ラピッドファイアピistol種目では5的を1グループとし、25mピistol、25mセンターファイアピistolおよび25mスタンダードピistolの各種目では4的または3的または例外的に5的を1グループとして標的を配置しなければならない。
- 6.4.11.4 25m射場は5的からなる標的グループ(1ペイ)2つで構成されるセクションに分けられていなければならない。
- 6.4.11.5 25m射場は間に仕切りのない構造または防護通路で分割されている構造のどちらも許される。仕切りのない構造の射場では標的役員は射撃線側から標的的位置までその都度移動する。防護通路は、使用する場合、射場関係者の標的線への安全な往復が保障されなければならない。防護通路使用時には、確実な安全コントロールシステムが提供されなければならない。
- 6.4.11.6 各セクションは全セクションの集中制御も各セクションの独立運用もできるようになっているべきである。
- 6.4.11.7 射座の広さは次の通りでなければならない。

種目	幅(左右)	奥行(前後)
25mラピッドファイアピistol	1.50m	1.50m
25mピistol、25mセンターファイアピistolおよび25mスタンダードピistol	1.00m	1.50m

- 6.4.11.8 射座は排出された葉莢から選手を保護するため、また射場役員が監視できるように透過したスクリーンで仕切られていなければならない。そのスクリーンは射座間に置かれるか吊り下げられ、排出された葉莢が他の選手に当たるのを防げるほど十分な大きさがなければならない。スクリーンは役員や観客から選手を見えにくくしてはならない。
注：以前のルールで要求されていた大きなスクリーンを設置している射場では、そのスクリーンは2014年中までは使用を継続できる。
- 6.4.11.9 45°参照線は射座の両側の射場の壁またはセクションの分割壁に設置されるべきである。
- 6.4.11.10 各射座には次の備品が備えられていなければならない。
- ・移動または調整可能な大きさ0.50m×0.60mで高さ0.70m~1.00mの机または台1脚。
 - ・本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け1脚；ファイナル射場においては射座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。
 - ・紙標的が使用される場合、記点手用の机と椅子各1脚。
 - ・紙標的が使用される場合、記点手が観客に選手の得点を仮発表するための約50cm×50cmのスコアボード1枚。スコアボードは、観客が選手を見るのに邪魔にならないところで、観客が容易に見ることができる位置にあるべきである。
- 6.4.11.11 **機能確認射場** 選手が銃器の機能テストを行えるように、標的の貼られていない特別に指定され監督された機能確認射場が用意されなければならない。

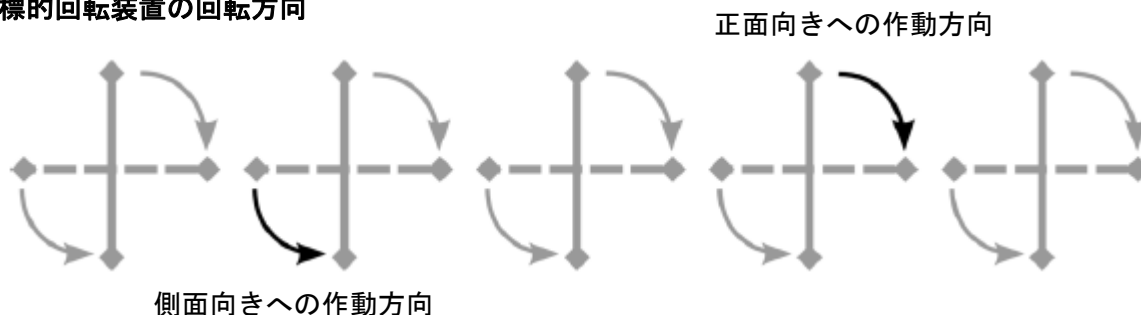
6.4.12 25m標的回転装置の設置基準

25mラピッドファイアピストル種目の標的枠は5的を1グループとして、すべての標的が+1cm以内の同じ高さで、同調して機能することおよびグループの真中の標的を中央とする射座に正対するように設置されなければならない。5的1グループ中の各標的の中央間（軸から軸）は75cm（+1cm）でなければならない。

6.4.12.1 射場には垂直軸を中心として90°（±10°）の角度で回転する標的回転装置が設置されなければならない。25mピストル種目の精密射撃では固定標的枠を使用してもよい。

- ※ ・回転時間は0.3秒以内でなければならない。
- ・標的が回転し終わったとき、選手を惑わすような目に見える振動があってはならない。
- ・上から見て、標的は時計回りに回転し正面向きとなり、反時計回りに回転して側面向きとならなければならない。

標的回転装置の回転方向



- ・各セクション内の全標的は同時に回転しなければならない。同時回転は、効率的な操作と正確な時間を提供できる機械装置によって行われなければならない。

6.4.12.2 自動回転制御装置は、規定時間正面向きの位置を維持し、規定時間（+0.2秒～0.0秒）が経過すると側面向きの位置に標的を戻すという動作と時間を正確に変動なく作動することを保証するものでなければならない。

- ・規定時間は標的が正面向きに回転する瞬間に始まり、側面向きに回転する瞬間に終わるものとしなければならない。
- ・もし計測した時間が規定時間に足りないかまたは0.2秒より長いときは、射場役員は自分自身またはジュリーの指示により計時装置の調節のため射撃を中断しなければならない。そのような場合、ジュリーは射撃の開始または再開を遅らせることができる。

6.4.12.3 25mピストル種目の本選の標的正面静止時間は、

- ・25mラピッドファイアピストル：8秒、6秒、4秒
- ・25mスタンダードピストル：150秒、20秒、10秒
- ・25mピストルと25mセンターファイアピストルの速射ステージ：1発ごとに3秒間正面を向き、次の7秒間（±1秒）側面を向く。
- ・正面静止時間の許容差は+0.2秒～0.0秒である。

6.4.12.4 固い材質のバックボードが使用される場合、採点を容易にするために、標的の8点圏より内側にあたる部分は切り取られるかまたは段ボールで作られていなければならない。

6.4.13 25m電子標的システムの基準

電子標的を使用する場合、計時装置には各標的出現時間に合計0.3秒が加えられるように

時間設定されなければならない。この加えられた0.3秒は回転標的における回転時間の許容範囲である+0.1秒と“追加時間”の+0.2秒を合計したものである。追加時間は紙標的を用いた回転標的装置において“スキッドショット”として認められるものを電子標的においても有効弾として採点することを保証するものである。

※6.4.14

屋内射場の要求照度（ルクス）

屋内射場	全 体		標 的 面	
	最 少	推 奨（最少）	最 少	推 奨（最少）
10m	300	500	1500	1800
25m	300	500	1500	2500
50m	300	500	1500	3000

ファイナル射場は全体の最少照度が500ルクスで射座の最少照度が1000ルクスでなければならない。新設射場では射座の照度は1500ルクス付近を推奨する。

※6.4.14.1

すべての屋内射場では標的や射座に影などが生じないような十分でまぶしくない光度の人工照明が設置されなければならない。標的の後方は反射のない中間色の背景にしなければならない。

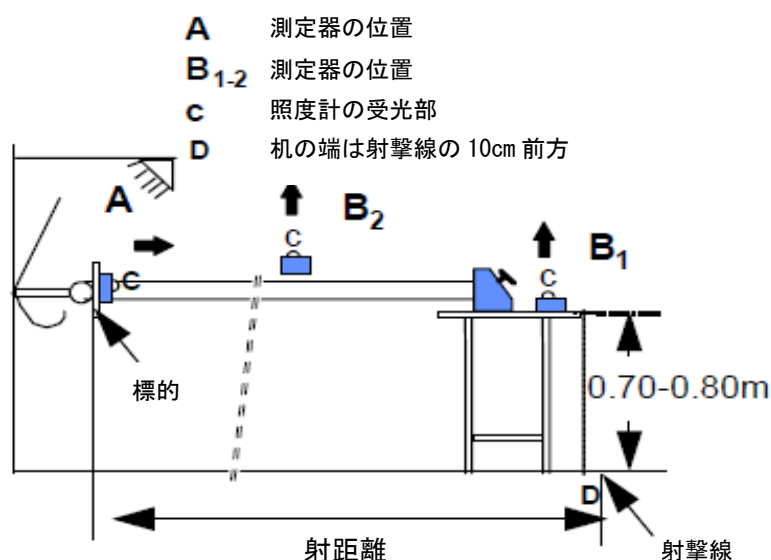
6.4.14.2

標的面の照度は、測定器で測定し、標的の高さで射座に向けた位置で測らなければならない（A）。

6.4.14.3

射場全体の照度の測定は、測定器で測定し、射座（B₁）と射座と標的線の間地点（B₂）で測定器を天井の照明に向けて測定しなければならない。

屋内射場の照度測定



※6.5

ゲージと測定器具

- ・各組織委員会はISSF選手権大会の開催期間中、用具検査に使用するゲージや測定器具など道具一式を用意しなければならない。
- ・用具検査を実施する上で必要な用具検査器具の詳しいリストとそれらの器具の仕様と性

能の表は I S S F 本部に用意してある。

- ・ I S S F テクニカルデレゲートまたは主任用具検査ジュリーは競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。
- ・ 弾速検査用具を使用するための検査を行う用具検査器具は I S S F 本部に用意してある。
- ・ 選手の衣服等の厚さ、固さ、柔軟性の検査に用いる測定器具はこのルール（下記 6.5.1）に従って製造されていなければならない、なおかつ I S S F 技術委員会によって承認されていなければならない。

6.5.1

厚さ測定器具

服装、靴の厚さを測定する装置は 1/10mm (0.1mm) まで測定可能なものでなければならない。測定は 5.0kg の重さをかけた状態で行われなければならない。測定装置には直径 30mm の平らな円盤が 2 枚向かい合わせに装着されていなければならない。

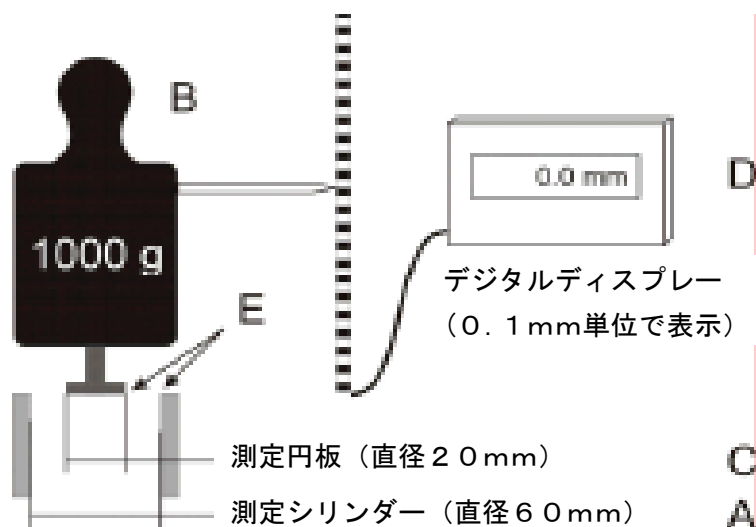


6.5.2

固さ測定装置

服装の固さを測定する装置は 1/10mm (0.1mm) まで測定可能なものでなければならない、以下の寸法を満たさなければならない。

A	測定シリンダー	直径 60mm
B	測定おもり	1kg (取っ手、測定円板 C を含む)
C	測定円板	直径 20mm
D	デジタルディスプレイ	0.1mm 単位で表示
E	測定円板 (C) と測定シリンダー (A) の大きさは規定値より半径で 0.5mm を超えてはならない。	

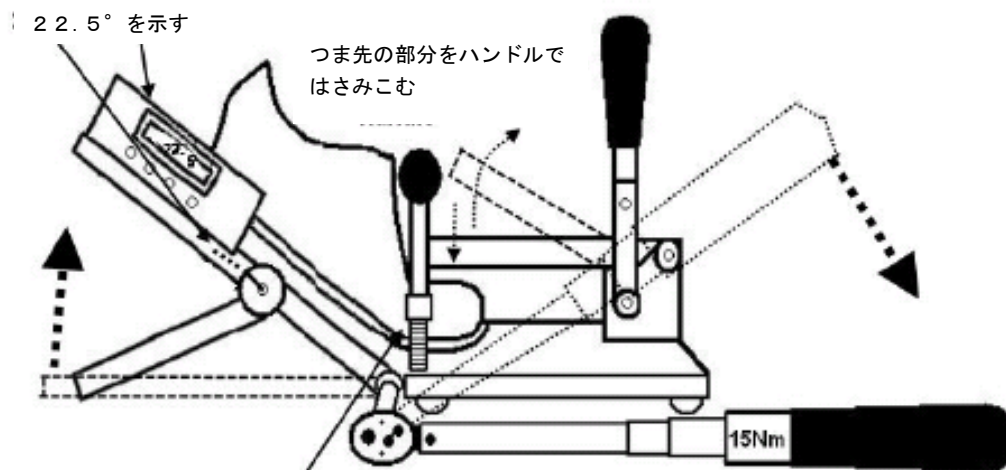


- ・ 固さの測定は、測定シリンダー “A” の上に引っ張ったりすることなく生地/素材を水平に置かなければならない。
- ・ その上から測定円板 “C” で測定おもり “B” の重量をかける。

6.5.3

靴底の柔軟性測定装置

靴底の柔軟性測定に用いる装置は、靴底に上方への精値な圧力（15 Nm）を加えた場合の柔軟性を、靴底のなす角度として正確な測定が可能でなければならない。



トルクハンドルを下方向に押すことにより靴を載せたプラットフォームが持ち上げられる。15 Nmの力をトルクレンチで加え、トルクレンチがカチッと音を発する前に示されていた角度を読みとる。

6.6

選手権大会の運営管理

6.6.1

選手権大会のプログラムとスケジュール

6.6.1.1

組織委員会は選手権大会への参加要請、スケジュール、公式シンボルおよびロゴ、参加申込書の様式などを含む選手権大会のプログラムを準備し、そのプログラムに対する検閲と承認を得るため I S S F の事務局長にプログラムを送付しなければならない (G R 3.7.2)。世界選手権大会のプログラムは開催の 15 ヶ月前に送付されなければならない。ワールドカップ大会のプログラムは、そのワールドカップ大会の開催される前年の 11 月 1 日までに I S S F の事務局長に送付されなければならない。

6.6.1.2

組織委員会とテクニカルデレゲートは各選手権大会の実施種目の詳細なスケジュールを準備しなければならない (G R 3.7.2.1.1)。選手権大会のスケジュールは、公式到着日、1

日以上の公式練習、競技実施の必要日数と公式出発日含まれているべきである。世界選手権大会の練習日、開閉会式を含めたスケジュールは16日間を超えないようにすべきである。組織委員会の選択として、公式練習日以前に追加の練習日として射場を開けることはできる。

6.6.1.3 組織委員会とテクニカルデレゲートは、MQSのみの参加を認めるのか、射撃に使える時間数、射群の設定数、使用する射座数などの決定を通して決められた各種目ごとの最大参加数（射座数）をプログラムの中で提示しなければならない。

6.6.1.4 ISSF事務局長が認可した公式プログラムは組織委員会によって発行され、世界選手権大会の開催12ヶ月前、ワールドカップ大会の開催5ヶ月前にすべてのISSFの会員連盟に送付されなければならない。

6.6.1.5 公式練習、競技前練習、予選、本選、ファイナルの正確な日時の入った最終スケジュールは最終参加締切りの後できるだけ早く準備されなければならない。最終スケジュールはテクニカルデレゲートによって承認されなければならない。

※6.6.2 練習

6.6.2.1 **公式練習** ワールドカップ大会では公式到着日の翌日に1日間の公式練習日を設定しなければならない。オリンピック大会や世界選手権大会では追加の公式練習日を設定することができる。

6.6.2.2 **競技前練習（PET）** 競技前練習は各種目の競技実施前日に行われなければならない。ライフル、ピストル種目については、各選手が自分の競技する射座で1射群あたり40分以上（ラピッドファイアピストルにおいては1射群あたり30分以上）の練習がその種目の競技実施前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。

6.5.7.3 **非公式練習** 公式練習および競技前練習に加えて、もし射場や十分なスタッフが整うならば、選手に追加の練習の機会を与えることができる。

6.6.3 参加と参加確認

各国連盟は公式到着日の30日前の最終参加締切りまでにISSFエントリーシステムに参加申込書を送付しなければならない（GR3.7.3.4）。

- ・提出の遅れた参加申込書は、追加の罰金の支払いと空き射座があれば、公式到着日の3日前まで提出することができる（GR3.7.3.4）。
- ・組織委員会に対する参加確認と参加料の支払いは到着までにチームリーダーが完了しておかなければならない（GR3.7.4）。
- ・参加者の変更はGR3.7.3に従ってのみ行うことができる。参加者の変更は変更の生じる種目の競技前練習（PET）の行われる12時間前までに完了しなければならない。

6.6.4 代表者会議（テクニカルミーティング）

競技会ディレクターとテクニカルデレゲートによって進行される代表者会議は、競技の詳細やスケジュールの変更をチームリーダーに知らせるために、競技開始日の前日に実施する予定がされていなければならない。

6.6.5 射座割表

- ・射座割表は各種目の競技前練習の行われる16時間前には発表され、配布されていなければならない。

- ・ **選手交代** 団体種目に限り、該当種目の予定開始時刻の遅くとも30分前までなら、すでに登録してある選手を別の選手に交代することができる。このルールは競技が何回かに分けて行われたり、数日に渡って行われる場合でも適用される。

6.6.6

射座割の基本原則

- ・ 射座と射群の抽選は、テクニカルデレゲートの監督のもと、くじ引きかこの目的に合ったコンピュータプログラムで実施されなければならない。
- ・ 射座割の決定にくじを用いることに際しては、テクニカルデレゲートは射場の制約条件を考慮することを承認しなければならない。
- ・ 選手個人や各チーム（国）はできる限り平等に近い条件のもとで射撃ができるようにすべきである。
- ・ 同じチーム（国）の選手が隣接する射座に割り当てられるべきではない。
- ・ 各チーム（国）の選手はできる限り平等に各射群に割り振られるべきである。
- ・ エアライフルまたはエア・ピストル種目において選手の数が増える場合、射座割は抽選によって2またはそれ以上の射群に振り分けられなければならない。
- ・ 団体戦が複数の射群で行われるときは各チームの構成メンバーの選手を各射群に平等に割り当てなければならない。
- ・ ライフル種目の競技が2日以上に渡って行われる場合、それぞれの日に同じ姿勢、同じ弾数をすべての選手が撃たなければならない。
- ・ ピストル種目の競技が2つのパートまたは日に分けて実施される場合、後半または2日目が始まる前にすべての選手が前半または1日目を終えていなければならない。すべての選手はそれぞれの日に同じ弾数／シリーズを撃たなければならない。

6.6.6.1

屋外射場における予選

選手の数が増える場合、予選が行われなければならない。

- ※ 予選はその種目の全コースを実施しなければならない。
- ・ 予選通過者は各射群の上位者から、各射群の実参加者数と同比率で、選出されなければならない。予選通過者はできるだけ早く発表されなければならない。
- ・ **計算式**: 使用可能な射座数 ÷ 実参加者総数 × 射群の実参加者数 = 予選通過者数
(例) 60射座で101人参加の場合
第1射群: 54名 → 32.08 ($60 \div 101 \times 54$) = 32名予選通過
第2射群: 47名 → 27.92 ($60 \div 101 \times 47$) = 28名予選通過
- ・ 予選で団体戦を行う必要がある場合、各チームの選手は予選の各射群に同数ずつ振り分けられなければならない。団体戦の得点は予選の得点によるものとする。
- ・ 第1射群に各チームの2名を第2射群に残りの1名を配分するには射座が不足してしまう場合、予選は各射群に1名ずつを配置する3つの射群により実施される。
- ・ 予選を通過できなかった選手は本選に出場することは許されない。
- ・ 予選通過者の最下位における同点の場合の順位決定は、同点の順位決定規則による。

6.6.6.2

射座割ー25mラピッドファイアピストル

- ・ 後半の30発のステージは、すべての選手が前半の30発のステージを完了した後、開始されなければならない。参加者数がすべての射群の射座を満杯にするには足りない場合、

最終射群の射座を空けて調整されるべきである。

- ・後半のステージの射群割は、次のように変更されなければならない。前半のステージにセクションの左側の射座で射撃した選手は、後半のステージでは同じセクションの右側の射座で射撃しなければならない（逆もまた同様）。
- ・1日で種目が終了する場合、前半のステージで各射群に分かれて撃った選手は、後半のステージでも、セクション内の左右は逆になるが、同じ射群、同じセクションで射撃を行う。例：

ステージ	射群	セクション1		セクション2		セクション3		セクション4	
		A	B	C	D	E	F	G	H
1	1	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	9	10	11	12	13	14	15	16
1	3	17	18	19	20	21	22	23	24
1	4	25	26	27	28	29	30	31	32
2	1	2	1	4	3	6	5	8	7
2	2	10	9	12	11	14	13	16	15
2	3	18	17	20	19	22	21	24	23
2	4	26	25	28	27	30	29	32	31

競技が2日間にわたる場合、後半のステージの第1射群には、前半のステージの中間にあった射群が入らなければならない。射群の数が偶数の場合、前半の中間の直後の射群が、後半の第1射群とならなければならない。例：

ステージ	射群	セクション1		セクション2		セクション3		セクション4	
		A	B	C	D	E	F	G	H
1	1	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2	9	10	11	12	13	14	15	16
1	3	17	18	19	20	21	22	23	24
1	4	25	26	27	28	29	30	31	32
2	1	18	17	20	19	22	21	24	23
2	2	26	25	28	27	30	29	32	31
2	3	2	1	4	3	6	5	8	7
2	4	10	9	12	11	14	13	16	15

6.7 競技用服装および用具

6.7.1

ISSFは競技用の服装および用具に関して明確なる基準を制定した。これらの基準は、ISSF選手権大会において、選手が守らなければならないものでありまた用具検査においてその実施の状態をチェックする。これらの基準は他の選手よりも不正に有利となる選手のない公正で平等な競技会の原則を守るためのものである。

6.7.2

選手はISSFルールに合った用具と服装のみを使用しなければならない。他の選手よりも不当な有利を選手に与えるような銃、装置、用具、付属品またはその他の物およびそのような物でルールに言及されていない物またはISSFルールに反する物の使用は禁止さ

れる。

6.7.3 用具検査証は検査済み用具とともに保管しておかなければならない。検査済みの用具や衣服であっても、改造をしたものは再検査されなければならない。

※6.7.4 ライフルの用具はISSF世界選手権大会またはワールドカップで1回のみ検査（One Time Only 検査）を受ければよい。

6.7.5 競技用衣服および用具

6.7.5.1 特定の種目の中で使用されるルールに規定された用具については、種目ごとのルールを参照すること。

6.7.5.2 選手には使用に先立ちすべての用具と服装を公式の検査と承認を得るために用具検査に提出する責任がある。

6.7.5.3 選手の両脚、胴、または腕の動きを過度に制限したり固定したりする、運動用もしくは医療用または同様のテープの使用を含む、特別な装置、方法、衣服の使用がライフルおよびピストルの選手に禁止されるのは、選手の技術を人工的に向上させないためである。

6.7.5.4 減音装置（聴覚保護）のみ使用できる。ラジオ、i P o d s、または似たようなタイプの音響発生または通信装置の使用は、競技役員を除き、競技中および練習中も禁止される。

※6.7.6 ISSFドレスコード

公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび役員の責任である。選手と役員の服装はISSFドレスコード（ISSF本部に用意してある）を遵守しなければならない。

6.7.6.1 半スポンをはいて競技をする場合、その半スポンは膝（中心）上15cmより長くなければならない。

6.7.6.2 表彰式またはその他の式典では、選手は公式ユニフォームまたは公式トレーニングウェアに運動靴を着用してくることを要求される。

6.7.6.3 ジュリーはISSFドレスコードの実施に責任を負う。

※6.7.7 用具検査

競技開始前に、すべての選手の競技会で使用される銃や用具はそれがISSFルールに合致していることを確認するために用具検査係によって検査されなければならない。各選手は、競技会での使用前に、公式の検査と承認を得るために、銃と用具を持参する責任を負う。すべての選手の銃と用具は競技後の検査を受けさせることができる。

6.7.7.1 用具検査手順

- ・組織委員会はチーム役員および選手に、競技開始前に十分な時間をもって、用具検査がいつ、どこで行われるかを通知しておかなければならない。
- ・用具検査係は用具検査ジュリーの支援と監督を受ける。
- ※ ・用具検査係は用具検査で承認を受けたそれぞれの銃の選手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票（コントロールカード）に記録しなければならない。
- ・エアまたはCO₂シリンダーが保証期間（最大10年）内であり安全であると保証することは選手の責任である。このことは用具検査がチェックすることができ、推奨される措置を忠告することができる。
- ・用具検査で承認を受けたすべての用具類にはシールかステッカーで印がつけられなければ

ならない。そして用具検査票にも承認の記録がされなければならない。

- ※ ・用具検査票のコピーが1枚選手に渡される。選手は用具とともにその検査票を常にかけていなければならない。もし選手が用具検査票をなくした場合、その再発行には10.00ユーロの料金がかかる。
- ※ ・もしライフル用の服装を同じ選手権大会の期間中に2度目もしくは再検査のために再提出するならば、再検査費用として20.00ユーロが課せられる。
 - ・用具類が承認された後には、競技開始前、競技中のいかなるときも、ISSFルールに反するいかなる方法による改変も加えてはならない。
 - ・改変に対して疑義が生じたならば、その用具は承認を得るための再検査を受けるため、用具検査係に戻されなければならない。
 - ・用具類の承認は、“One Time Only 検査”で検査されたライフルの服装を除き、その検査が行われた競技会のみ有効である。

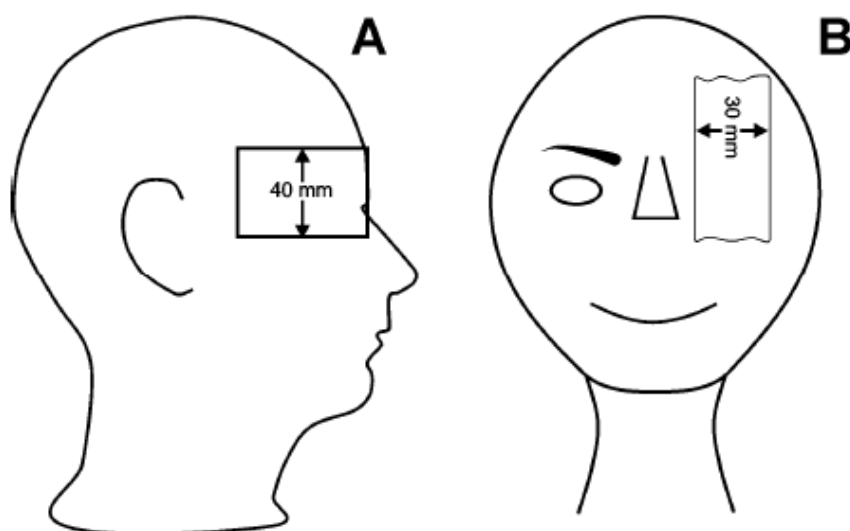
※6.7.8 Bib (スタート) 番号および選手の着用物

6.7.8.1 すべての選手は競技中は常にBib (スタート) 番号を着用している上着の腰よりも上の背中の部分につけていなければならない。Bib (ゼッケン) には選手に与えられたその選手権大会での番号、姓、名の頭文字、所属国名 (IOC 国名略称のみ) が示されていなければならない。国旗を使用する場合は、IOC 国名略称の左側に配置されなければならない。名前に使われる文字の大きさは高さ20mm以上で、できる限り大きなものが使用されるべきである。

6.7.8.2 Bib 番号は競技前練習中や競技中を通して常に選手の上着の腰より上の背部に付けられていなければならない。もしBib 番号を持っていて付けていない場合、選手は競技することはできない。

6.7.8.3 すべての選手はISSF 競技者資格、ISSF 商権ならびにISSF スポンサーシップ/広告ルールを守らなければならない。このルールは服装の上に付けられた標章、スポンサー、広告、トレードマーク等に関する制限と制裁について規定している。

6.7.8.4 帽子、キャップ、眼鏡枠またはヘッドバンドに取り付けるサイドブラインダー (片側または両側) は高さ40mmを超えないものの使用が許される (A)。サイドブラインダーの前端は、横から見たときに、額の中心から伸ばされる直線を超えて前方に延びてはならない。照準に使用しない眼を覆うフロントブラインダーは幅30mmを超えないものの使用が許される (B)。



6.7.9 競技後検査

※6.7.9.1

フォローアップ検査は予選および本選ラウンドの後に行われなければならない。10m、50mのライフルおよびピストル種目でのフォローアップ検査は、各射群ごとにファイナリストを含む3名以上の選手をランダムおよび指名選出し、実施しなければならない。25mピストル種目のフォローアップ検査はPR8.4.2.3に従って行われなければならない。用具検査ジュリーはすべての競技後検査の運営を監督する責任を負う。ライフルの競技後検査は射撃用の服装、下着、テーピングおよびライフル（必要なら引き金検査）の検査を含まなければならない。ピストルの競技後検査は靴、テーピング、引き金の重さおよび25mラピッドファイアピストルでは弾速と弾頭重量の検査を含まなければならない。服装とテーピングの検査は選手と同性の審判が担当しなければならない。

6.7.9.2

ライフルの服装検査は対象選手が射撃を終了した直後に行われる。服装が検査に合格しない場合、再検査が実施される。いずれかの服装が2回目の検査でも合格しなかった場合、その選手は失格とされなければならない。フォローアップ検査前および検査中に、服装に加熱または他の方法による一時的または恒久的な変更を加えてはならない。

6.7.9.3

競技後検査に通らなかった選手が出た場合、主任用具検査ジュリーまたは主任用具検査ジュリーに担当を指示されていたジュリーは検査が正確に行われていたことを確認し、選手を失格にしなければならない。この失格に対する上訴は上訴ジュリーに提出することができる。上訴ジュリーは、検査が正確に行われていたのであれば、再検査はできないことを決定しなければならない。

6.7.9.4

選手が銃、服装または用具に変更または変更を試みたという確かな証拠をジュリーが手に入れた場合、その選手を指名選択検査（特定の選手を選ぶ）することができる。

※6.8

競技ジュリーの任務と職務

ジュリーは組織委員会の任命した競技役員を助言し、援助し、監督する責任を負う。

- ・ 競技ジュリーは各種目（ライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲット）の競技運営を監督する。
- ・ 審査ジュリーは採点および成績発表を監督する。
- ・ 用具検査ジュリーは選手の服装および用具の検査を監督する。

6.8.1

組織委員会に任命された射場役員は、ジュリーによる助言、監督を受けながら、競技会の実質運営に責任を負う。射場役員とジュリーは互いに、ISSFルールに則り、練習および競技を進行していくことに責任を負い、競技会の開催中、公正で公平なルールの実施を確保しなければならない。

6.8.2

すべてのジュリーは、勤務中には、公式ISSFジュリーベスト（赤色）を着用しなければならない。ジュリーベストはISSF本部から購入しなければならない。すべての射場役員は、勤務中には、見分けのつくベスト（緑色が望ましい）を着用するかまたは見分けのつく方法をとることを推奨する。すべての標的役員または射線前方での作業のある係員は蛍光色

のベストまたは目立つ腕章を着用することを推奨する。

- 6.8.3 競技の開始前に競技ジュリーは I S S F 規則に適合しているかを確認するため、それぞれの担当の射場を検査し、射場係員などの組織構成と配置を点検しなければならない。ジュリーの点検は従前に行われたテクニカルデレゲートによる点検と連携して行われるべきである。
- 6.8.4 ジュリーはたえず選手の射撃姿勢や用具を観察しなければならない。
- 6.8.5 ジュリーは、練習および競技中いつでも、選手の銃、用具、姿勢などを検査する権利を持つ。
- 6.8.6 競技中では、ジュリーは選手が撃発しようとするときや速射種目のシリーズ中の接近は避けるべきである。しかしながら、危害予防に関する場合は即座の行動を取らなければならない。
- 6.8.7 ジュリーの過半数は競技中、常に射場において、必要とあらばジュリー会議を開き、即座に裁定を下すことができなければならない。
- 6.8.8 ジュリーは競技中、独自の裁定を下す権利を持つが、少しでも疑問のある場合は他のジュリーや射場役員に相談すべきである。チーム役員または選手が一人のジュリーの裁定に同意できない場合、書面の抗議を行う事によって、ジュリーの多数決による裁定を求めることができる。
- 6.8.9 ジュリーは、選手の持つ国籍、人種、宗教、民族、文化にかかわらず、完全に公平な裁定を下さなければならない。
- 6.8.10 ジュリーは、I S S F ルールに従って、提出されたどんな抗議も扱わなければならない。ジュリーは射場役員や直接の関係者との協議後にその抗議に対する裁定を下すものとする。
- 6.8.11 ジュリーは I S S F ルールに規定されていないあらゆる問題に対して裁定を下さなければならない。そのような裁定は、各選手権大会後にテクニカルデレゲートに提出される主任ジュリーの報告書の中に含まれていなければならない。
- ※6.8.12 選手およびチーム役員はジュリーになることはできない。ジュリーは競技中いかなる時も I S S F ルールの範囲を超えて選手に助言、指導、補助をしてはならない。
- 6.8.13 主任ジュリーはジュリーのスケジュール管理とすべての公式および競技前練習を含むすべての時間に十分な人数のジュリーを確保することに責任を負う。
- 6.8.14 主任ジュリーは、選手権大会後できるだけ早くテクニカルデレゲートを通して I S S F 事務局長に提出される、ジュリーの裁定と行動に関する報告書を準備することになっている。
- 6.8.15 **ジュリーの任務－紙標的－25m種目のみ**
- ・紙標的を使用する25m種目では、審査ジュリーまたはピストルジュリーのなかから、各セクションまたは5～10射座ごとに1名の標的線ジュリーが任命されなければならない(すなわち1名の標的役員に対して1名のジュリーが任命される)。標的線ジュリーは標的役員と標的線にて行動を共にしなければならない。
 - ・標的線ジュリーは採点をはじめる前に、標的上の正確な弾痕数、得点圏線付近などを観察し標的を調べ、チェックしなければならない。疑わしい状態は採点を始める前に解決されていなければならない。
 - ・疑わしい状態の裁定は、2人のジュリーおよび標的役員が同時に行わなければならない。この場合、ジュリーの一人が主任を務め、ゲージの挿入が必要な場合はその任にあたる。
 - ・標的線ジュリーは標的線において第二記点係が記録したすべての結果が正確であることと、ジュリーの裁定が採点票に正しく記録されていることを確認しなければならない。

- ・ 標的線ジュリーは、疑わしき状態が解決され、得点が第二記点係によって正確に記録されるまでは、弾痕を治痕せず、また着色円板で弾痕の表示をさせてはならない。

※6.9

組織委員会の任命する競技役員

6.9.1

射場長（CRO）の任務と職務

6.9.1.1

射場長（CRO）は射場ごとに任命されなければならない。射場長はすべての射場役員と射場勤務員の統括者であり、競技種目の適切な運営に責任を負う。射場長はすべての射場内の号令の発令に責任を負い、すべての射場勤務員がジュリーに対して協力することを保証する責任をも負う。

6.9.1.2

射場長は射場設備の故障に対し早急な措置を行う責任を負い、射場を運営するために必要な専門家や資材を確保する責任を負う。補修、修理は常に射場長の迅速処理事項である。補修、修理の能力を超えるような事態が生じた場合、次の手立てを講じなければならない。

6.9.2

射場役員（RO）の任務と職務

射場役員（RO）は標的グループの各セクションまたは5～10射座ごとに任命されなければならない。

- ・ 射場役員は担当する射座区域において射場長の指示を実行させる責任を負わなければならない。
- ・ 射場役員は射座で選手の点呼を行わなければならない。
- ・ 射場役員は選手の名前とBib番号をチェックして、射座割表と一致していることを確認しなければならない。
- ・ 射場役員は選手の銃、用具および装備が検査、承認されていることを確認しなければならない。
- ・ 射場役員は選手の射撃姿勢をチェックし、不審があればジュリーに報告しなければならない。
- ・ 射場役員は射場長の号令が伝わっているか確認しなければならない。
- ・ 射場役員は競技中に生じる故障、抗議、妨害または他のさまざまな問題について必要な行動をとらなければならない。
- ・ 射場役員は、紙標的を使用するとき、記点係に正確な記録を行わせる責任を負わなければならない。
- ・ 射場役員は標的の正確な操作を監督しなければならない。
- ・ 射場役員は抗議を受理し、ジュリーに引き継がなければならない。
- ・ 射場役員はすべての不測の事態、妨害、罰則、銃器故障、誤射、許可された追加時間、再射などを事故報告書、標的上またはプリンター用紙に適切に記録する責任を負わなければならない。
- ・ 競技中、得点や試合の残り時間に関しては、選手と会話したり、コメントすることは控えなければならない。

6.9.3

審査長（CCO）の任務と職務

審査長は選手権大会ごとに任命されなければならない。審査長はすべての審査役員および成績発表に関する係員の統括者である。審査長は選手権大会におけるすべての採点および成績発表手順の正確な進行に責任を負う。

6.9.4

記点係の任務と職務 — 紙標的

紙標的が使用される場合、記点係を各射座ごとに任命してもよい。

- ・記点係は得点票と速報板に関連する情報（選手の名前、B i b 番号、射座番号など）を記入するか、または記入してあるものを確認しなければならない。
- ・遠隔操作される標的交換機を使用している場合、記点係には監的スコープが用意されなければならない。記点係が標的交換を行う場合、選手に弾着確認の時間を与えるため、標的交換の合図を送る前に数秒待たなければならない。
- ・記点係は得点票に仮得点を記入し、その得点を観客のために机の上方または側方に備えられた速報板に記入しなければならない。
- ・射撃線まで標的が戻ってくる装置のある射場においては、記点係は撃ち終わった標的を 10 発の 1 シリーズごとにすみやかにまとめて回収し、標的運搬係が審査室に標的を運ぶための鍵のかかる容器に収納しなければならない。

6.9.5

ランニングターゲット記点係の任務と職務 — 紙標的

6.9.6

ランニングターゲット射撃線役員の任務と職務 — 紙標的

6.9.7

標的役員および監的役員の任務と職務 — 紙標的

監的役員の数は射場役員の数と同数にすべきである。監的での作業において、監的役員は割り当てられた射場セクションや標的群の標的を、選手の次弾の発射のために、素早く交換、採点、示点、再掲示することを確実に行うことに責任を負う。

- ・監的役員は標的の白い部分に弾痕がないことを確認するとともに、標的枠上のどのような弾痕についても明確に印が付けられていることを確認しなければならない。
- ・標的上に弾痕が無かった場合、監的役員は近接の標的への弾痕の有無を決定することと、ジュリーおよび射場役員と協議して、事態を解決する責任を負わなければならない。
- ・自動標的交換機が使用される場合、監的役員は交換機に正しい標的を装填するとともに撃ち終わった標的を取り出し審査室に運ぶ準備をする責任を負わなければならない。
- ・標的上に生じるあらゆる不測の事態について印を付け記録する責任を負わなければならない。

6.9.8

ランニングターゲット監的役員の任務と職務 — 紙標的

6.9.9

25m 標的役員 — 紙標的

標的役員は標的グループの各セクションまたは 5 ~ 10 射座ごと任命されなければならない。標的役員と射場役員は同数でなければならない。

- ・割り当てられた標的グループに対して責任を負わなければならない。
- ・得点の紛らわしい弾痕についてジュリーに注意を促さなければならない。採点がなされた後、標的役員は発射弾の位置および点数を示点しなければならない。
- ・標的を速やかに、正確に、能率的に採点し、治痕し、ルールに従って標的交換を行わなければならない。
- ・射場役員およびジュリーと協力し I S S F ルールに従って疑わしい事態の解決を補助しなければならない。

6.9.10

25m 第二記点係 — 紙標的

25m 種目のすべてのステージの公式採点は射場にて行われる。第二記点係は標的線におい

て、標的役員が呼び上げた点数を記録用紙に記入しなければならない。記点係に記録された得点と第二記点係のそれとが異なり、解決できない場合は、第二記点係のものが有効となる。

6.9.11 25m標的治療係— 紙標的

採点が完了後、標的治療係は、標的、コントロールシートおよびバックングターゲット上の弾痕を治療し、指示に従って、標的やコントロールシートの交換を行なう。

6.10 競技会におけるEST操作

6.10.1 EST技術役員

- ・ EST技術役員は電子標的装置の操作、保守に責任を負う。
- ・ EST技術役員は射場役員やジュリーに助言することはできるが、ISSFルール適用に関していかなる裁定も下してはならない。
- ・ EST技術役員は通常、公式成績プロバイダーによって指名されるが、ESTと競技会運営システムの取り扱いに関する研修を終了した者でなければならない。

6.10.2 標的役員

標的役員はESTの操作と保守を補助するために組織委員会によって任命される。

- ・ 各種目の各射群に先立って、標的役員は標的の白い部分に弾痕がないこと、標的枠上のすべての弾痕が明示してあることを確認しなければならない。
- ・ 競技会中、標的役員はバックングターゲットとバックングカードを治療し、コントロールシートを交換する。
- ・ バックングターゲット、バックングカード、コントロールシートの治療および交換は採点が完了するまで行ってはならない。

6.10.3 ジュリーの任務 — EST

6.10.3.1 審査ジュリーは審査手順の監督をし、採点に関するあらゆる事態の解決を助けるため射場にいることになる。競技ジュリーは、審査ジュリーが2名以下しかいない状態で行動や裁定が必要となった場合、補助をしなければならない。

6.10.3.2 種目の各射群の前にジュリーは以下の項目について確認するためにESTを点検しなければならない。

- ・ 標的の白い部分に弾痕がないこと。
- ・ 標的枠上の弾痕が明確に示されていること。
- ・ コントロールシートが交換されていること。
- ・ バックングカードとバックングターゲットに、コントロールシートに覆われている中心部分以外に、弾痕がないこと。

6.10.4 ESTでの射撃

- ・ 選手は練習期間中にモニター画面の標的表示の切り替え(ズーム機能)および試射、本射の切り替えボタンの取り扱いに慣れておかななければならない。
- ・ 10m、25mおよび50m種目では試射から本射への切り替えは、50mライフルの三姿勢種目における姿勢切り替えに伴う選手の責任において行われる本射-試射-本射の切り替えを除いては、射場係員の操作によって行われる。操作や手順が心配な選手は射場役員に手助けを頼まなければならない。
- ・ 選手のモニター画面はそのどの部分についても覆い隠すことは許されない。画面全体が

ジュリーおよび射場勤務員に見えなければならない。

- ・選手ならびに射場役員は、ジュリーの承諾のある場合を除き、その射群またはその種目が終了する前にプリンタコントロールパネルおよびプリンター用紙に触れてはならない。
- ・選手は射場を離れる前に得点を確認し署名をプリンター用紙(合計の次)にすべきである。
- ・選手がプリンター用紙に署名しなかった場合、それを審査室に送ることを許可するためにジュリーまたは射場役員はそのプリンター用紙に頭文字で署名すべきである。

6.10.5 試射中の得点表示に関する不満

選手が、試射の間に、電子標的の示す弾着や採点に不満を持った場合、ジュリーはその選手に対し射座の変更を提案することができる。

- ・選手には適切な延長時間が与えられる。
- ・ジュリーは可能な限り迅速に選手が不満を訴えた射座で行われた試射を **ESTの検査手順**に従って検査を行う。
- ・この一連の検査で選手が不満を訴えた射座の電子標的が正しい結果を提示していたことが確認された場合、その選手には第一シリーズの最も低い得点に2点の減点が科せられる。

6.10.6 ロール紙やゴムバンドの動きの異状

選手の不満の原因がロール紙やゴムバンドの動きの異状にあると、ジュリーが確認した場合、

- ・選手は予備射座に移動する。
- ・選手にはその種目の残り時間に認められた追加時間を加えた時間が与えられ、この中で弾数無制限の試射が許される。
- ・選手はジュリーによって決められた数の本射弾を再射し、加えてその種目を完射するために必要な数の本射弾を撃つ。
- ・その射群が終了した後、審査ジュリーがそれぞれの標的で採点された得点のうちどれを採用するかを決定する。
- ・最初の射座のモニターに正しく表示されたすべての本射弾の得点と2番目の射座の標的に発射した、その種目を完了させるために必要な数の本射弾のすべての得点を加えたものが選手の得点として計算される。

6.10.7 得点に関する抗議

得点が表示され記録されたにもかかわらず、選手が表示された得点に関して 6.16.6.2 に従い抗議した場合。

- ・射群終了後、次の射群のために標的のデータがリセットされる前に、技術役員または射場役員によって、不満や抗議のあった標的とその両隣の標的の詳細なプリンタリザルト(ログプリント)が出力されなければならない。
- ・射群完了後、**ESTの検査手順**が実施される。
- ・表示されないまたは間違っ表示の弾痕は審査ジュリーによって採点されなければならない。
- ・審査ジュリーが抗議にかかる弾痕は正しく採点されていたと確認した場合、2点の減点が科せられる(6.16.6.2)。

6.10.8 得点に関する抗議または不満に対する電子標的(EST)の検査手順

得点に関する抗議、不満または得点の不表示などがあった場合、ジュリーは次の物を回収しなければならない（それぞれの物に射座番号およびカード、シート、標的の方向と射群、シリーズ、回収時刻が記入されていないなければならない）。

- ・コントロールシート（25m/50m）。コントロールシートの外に弾痕がある場合、コントロールシートを取り外す前に、コントロールシートとバックアップカードにある弾痕の位置関係を記録しておかなければならない。
- ・バックアップカード（25m/50m/300m）。
- ・バックアップターゲット（25m）。
- ・黒色ロール紙（10m）。
- ・黒色ラバーバンド（50m）。
- ・射場事故報告書。
- ・ログプリント。
- ・電子標的のコンピュータに記録されたデータ（必要に応じて）。

6.10.8.1 ジュリーはESTの表面、的枠を調べ、黒点の外にあるどのような弾痕の位置も記録しなければならない。

6.10.8.2 審査ジュリーの許可が出る前にログの消去を行ってはならない。

6.10.8.3 弾痕の数はそれらの位置関係も考慮に入れて数えられなければならない。

6.10.8.4 ジュリーは上記の物を調べ、正式なジュリー裁定が下される前に、独自の査定をしなければならない。

6.10.8.5 ジュリーは制御コンピュータの示す成績に手動で修正をする（例えば、ペナルティや故障後の修正された成績の記入など）際には監督をしなければならない。

6.10.9 ESTの故障

これらのルールは10m、50mおよび300mのESTに適用される。25mESTの故障に関してのルールはピストルルール8.10を参照。

6.10.9.1 射場のすべての標的が故障した場合

- ・故障の起きた時刻とその時の射撃経過時間は射場長とジュリーによって記録されなければならない。
- ・各選手の撃ち終わった本射弾数は数えられ、記録されなければならない。射場が停電になった場合、標的装置が発射弾痕を記録できるようになるまで電力供給が回復するのを待てばよい。この場合、射座のモニターの正常作動は要求されない。
- ・故障が回復し、全標的が機能するようになれば、競技の残り時間には5分間が加えられる。競技の再開される時刻は、拡声器を通じて、少なくとも5分前までに通知される。選手は競技再開の5分前には射座での準備が許されなければならない。弾数無制限の試射が、残り時間の中で本射再開前のみ、許されなければならない。

6.10.9.2 1個の標的が故障した場合

- ・電子標的が5分間以内に修理できない場合、選手は予備射座に移動しなければならない。
- ・射撃の準備が整った時点で、5分間が残り競技時間に追加される。
- ・選手には本射再開前に弾数無制限の試射が許される。

6.10.9.3 モニターに弾痕の位置表示や得点記録がなかった場合

選手はただちに異状を最寄りの射場役員に知らせなければならない。射場役員は不満の受付時刻を記録しなければならない。1名以上のジュリーがその射座に出向かなければならない。選手はその電子標的に対し、もう1発、照準をつけた射撃を行うように指示される。

a) このエキストラショットの得点および位置がモニター上に記録され表示された場合

- ・選手はこのまま競技を継続するように指示されなければならない。
- ・このエキストラショットの得点と位置および発射時刻は記録されなければならない。このエキストラショットが何発目か(不明の弾痕を含む)、得点、位置および射座番号は、書面でジュリーに報告され、個票と射場事故報告書に記録されなければならない。
- ・その射群の競技終了後、ESTの検査手順が行われる。この情報とエキストラショットの発射時刻およびその位置を利用し、審査ジュリーはエキストラショットを含むすべての弾痕がコンピュータに記録されている得点データのどれに相当するかを特定する。
- ・すべての弾痕が正しく記録されていた場合、疑問のあった発射弾(表示、記録のなった弾)の得点はその選手の得点として計算される。エキストラショットとして疑問の示された直後に発射された弾についてはこれを得点に含め、最終弾(規定弾数を越えたもの)が取り消される。
- ・疑問のあった発射弾の弾痕が、ESTの検査手順によっても、どこにも見つからなかった場合、エキストラショットの得点が採用され、最終弾(規定弾数を越えたもの)までがその選手の得点として計算される。
- ・疑問のあった発射弾のデータがコンピュータメモリに無いにもかかわらず、弾痕が見つかった場合、審査ジュリーがその疑問のあった発射弾の有効性と得点を決定する。

b) 指示されたエキストラショットが記録、表示されず、ESTが5分以内に修理できない場合

- ・選手は予備射座に移動しなければならない。
- ・射撃の準備が整った時点で、5分間が残り競技時間に追加される。選手には弾数無制限の試射が許される。
- ・10mおよび50mのライフルおよびピストル種目では、選手は前の射座で記録、表示されなかった2発の本射を再射する。

6.11 **競技会手順(6.17のファイナル競技手順も参照すること)**

6.11.1 **10mおよび50mライフルとピストル種目のルール**

6.11.1.1 **準備および試射時間**

選手には競技開始前に最終準備と弾数無制限の試射を行うために15分間が与えられなければならない。

- ・準備および試射時間の開始15分前までに試射的は上げられていなければならない。
- ・選手は射場長が選手を射座に呼び寄せる前に銃や用具の射座への持ち込みをすることはできない。
- ・射場長は準備および試射時間の開始15分前までに選手を射座に呼び寄せなければならない。
- ・複数の射群がある場合、すべての射群で射座への用具の持ち込みのための時間が同じになるようにしなければならない。

- ・射場長が選手を射座に呼び寄せた後は準備および試射時間前であっても、選手は射撃線において銃を取り扱い、据銃、照準、空撃ちをすることができる。
- ・ジュリーと射場役員による競技前チェックは準備および試射時間が始まるまでに完了しなければならない。
- ・準備および試射時間は“**PREPARATION AND SIGHTING TIME ... START** (プレパレーション アンド サイティング タイム... スタート)”の号令により開始される。
“**START** (スタート)”の号令前の発射はできない。
- ・準備および試射時間の**開始前**に1発以上の弾を発射してしまった選手には、安全上の問題のある場合は、失格が科せられなければならない。安全上の問題のない場合は、本射の1発目を0点として記録しなければならない。
- ・準備および試射時間の終了時刻は本射の公式開始時刻とならなければならない。

6.11.1.2 競技の開始

- ※ 準備および試射時間の終了時刻には、射場長の“**END OF PREPARATION AND SIGHTING... STOP** (エンド オブ プレパレーション アンド サイティング ... ストップ)”の号令が発せられる。その後、標的役員が本射への切換えをできるように、約30秒間の休止をとらなければならない。
- ・すべての標的が本射に切り替えられた後、射場長は“**MATCH FIRING... START** (マッチ ファイアリング... スタート)”の号令をかける。本射は射場長の“**START** (スタート)”の号令により開始されたものとみなされる。
- ・本射開始後のすべての発射弾は本射として記録されなければならない。しかしながら、空撃ちは許される。
- ・本射開始後は、50mライフル三姿勢種目の姿勢の切り替え時およびルールに基づくジュリーの許可を受けた場合を除いて、試射は許されない。
- ・このルールに反するすべての試射の発射弾は本射弾とみなされ、0点と記録されなければならない。
- ・射場長は拡声器により競技時間終了の10分前および5分前に、残り時間を選手に知らせなければならない。
- ・射場長やジュリーによって時間延長が認められていない場合、本射時間中に発射できなかった弾は0点として採点されなければならない。
- ・10mESTを使用した本射中にジュリーが射座内の選手の位置の移動を指示した場合、選手には本射再開前に2分間の延長時間と追加の試射が与えられなければならない。

6.11.1.3 “STOP (ストップ)”の号令

- 競技は“**STOP** (ストップ)”の号令または適切な信号を持って中断しなければならない。
- ・“**STOP**”の号令または信号の後に発射された弾は0点と採点されなければならない。
 - ・その弾痕が特定できない場合、その標的の最も高い得点の弾痕から順に取り消され、0点として採点されなければならない。

6.11.2 10mエアガン種目の特別ルール

- 6.11.2.1 選手が準備および試射時間前に発射ガス(空気)を放出した場合、1回目の違反には警告(W

ARNING)が出されなければならない。それ以降の違反については1回につき2点の減点が本射第1シリーズの最も低い得点にペナルティとして科されなければならない。

- 6.11.2.2 本射開始後、標的に弾痕を残さない発射ガス(空気)の放出には0点が記録される。ファイナルを除き、発射ガス(空気)の放出を伴わない空撃ちは許される。
- 6.11.2.3 選手がガスや空気シリンダーの交換または充填をする場合、射場役員の許可を受けた後、射座を離れて行わなければならない。競技時間中のガスや空気シリンダーの交換または充填には時間延長は認められない。
- 6.11.2.4 銃には1発のみ装填できる。銃に1発以上の弾が故意でなく装填された場合
- ・選手が状況に気付いているなら、銃を保持していない手を挙げ、問題が生じたことを射場役員に示さなければならない。そして射場役員の監督下で銃の抜弾をしなければならない。この場合、ペナルティは科されない。このことによる延長時間は許されない。
 - ・選手がその事に気づかず同時に2発を発射した場合、このことを射場役員に申し出なければならない。もし2発の弾痕が標的にあった場合、高い得点が採用され、2番目の弾痕は無効とされる。標的に1発しか弾痕のなかった場合は、この得点が採用される。

追 6.11.2-2 **ビームライフル、ビームピストル種目の特別ルール**

6.11.3 **10mエアライフルおよびエア・ピストルの紙標的操作**

- ・標的交換は射場役員の監督のもと、選手によって行われる。
- ・選手は正しい標的に射撃する責任を負う。
- ・選手は10発の各シリーズが終了したら直ちに10枚の標的を記点係が受け取りやすい場所に置かななければならない。記点係はその標的を標的運搬係が審査室に標的を運ぶための安全な箱に格納しなければならない。

6.11.4 **50mライフルおよび50mピストルの紙標的操作**

- ・自動標的回収機または自動標的交換機が使用される場合、選手または記点係によって標的交換を行うことができる。
- ・いずれの場合でも、選手は正しい標的に射撃する責任を負う。
- ・もし選手が標的交換が遅すぎると思った場合、選手は射場役員にその旨を申し立てることができる。射場役員またはジュリーはその申し立てが妥当であると判断した場合、事態を改善しなければならない。事態が改善されていないと選手またはチーム役員が思った場合、選手やチーム役員はジュリーに抗議できる。ジュリーは最大10分間の延長時間を認めることができる。本射の最後の30分間には、特別の事情がない限り、この申し立てを行うことはできない。

※6.11.5 **10m種目、50mライフルおよびピストル種目、300mライフル種目における中断**

- 6.11.5.1 選手は自らの責任によらない理由で**3分間以上**射撃を中断させられ、その中断が自らの銃および弾薬の故障によるものでない場合、中断された時間分の時間延長を要求できる。この中断が数分の残り時間しかないときにあった場合には中断された時間に1分間を加算した時間の延長を要求できる。
- 6.11.5.2 選手は自らの責任によらない理由で**5分間以上**射撃を中断させられ、その中断が自らの銃お

よび弾薬の故障によるものでない場合または射座を移動させられた場合、選手は中断した時間に5分間加算された延長時間を加えた残り時間の初めに弾数無制限の試射をすることができる。

- ・新しい試射的の挿入ができない自動標的交換機が使用されている場合、その試射は次の未使用の本射的に行われるべきである。その次の本射的に射場役員またはジュリーの指示に基づき2発の本射弾が撃ち込まれるべきである。
- ・射場役員またはジュリーは個票および射場事故報告書にこのことの完全な説明が記録されていることを確認しなければならない。
- ・ジュリーまたは射場役員によって許可された**延長時間**については射場事故報告書に理由を添えて記入されなければならない。

6.11.6 **違反行為と罰則ルール**

6.11.6.1 選手が**未承認の銃や用具**を使用して競技を開始した場合、本射第1シリーズの最も低い点数に対して2点の減点がペナルティとして科せられなければならない。その選手は、未承認の銃器や用具が用具検査で承認されるまで、射撃を継続することは許されない。射撃が再開できるのはジュリーによって決められたときだけである。追加の試射や時間延長は許されない。

6.11.6.2 選手が競技開始前または競技中に検査承認済みの銃または用具にルールに反するような改変を施した場合、その選手は失格とされなければならない。

6.11.6.3 銃や用具に施した改変に関して疑義が生じた場合、改変がルールに適合していることを証明するための再検査を受けるために、その銃や用具は用具検査に戻さなければならない。

6.11.6.4 選手が競技に**遅刻**した場合、参加はできるが追加時間は与えられない。選手が準備および試射時間の後に到着した場合、追加の試射時間は与えられない。遅刻が不可抗力によるものであると証明された場合、ジュリーは、ファイナルの開始時刻の遅れや全体の射撃日程を崩さない範囲で、準備および試射時間を含めて延長時間を補償しなければならない。この場合、ジュリーはいつ、どの射座で遅刻した選手が競技を開始するのかを決定する。

6.11.6.5 選手の用具が用具検査の承認済みであるにもかかわらず、その種目の開始時に**用具検査用紙を提示**することができない場合、選手は射撃を開始することはできるが、その種目のその射群の公式終了時刻までに、その選手（またはコーチやチーム役員）が競技開始前に用具検査の承認を受けていたという確認を取り付けられない場合、第1シリーズの最も低い得点に2点の減点がペナルティとして科せられる。このために用具検査室に出向くことは選手（またはコーチやチーム役員）の責任である。また、このことによる時間延長は許されない。

6.11.7 **10m、50mおよび300m種目におけるイレギュラーショット（不規則弾痕）**

6.11.7.1 **種目および姿勢における超過弾**

選手がその種目または姿勢の規定弾数より多くの弾を発射した場合、最終標的の超過弾は無効とされなければならない。超過弾が特定できない場合、最終標的の最高得点から順に無効とされなければならない。また選手には超過弾1発につき2点の減点が第1シリーズの低い点数から順にペナルティとして科せられなければならない。

6.11.7.2 **紙標的上の超過弾**

- ・選手が種目の規定標的撃ち込み数以上の弾を1枚の本射的に撃ち込んだ場合、最初の2発まではペナルティは科されない。

- ・その種目での3発目以降は1発につき2点の減点がペナルティとして科せられる。
- ・2点の減点は3発目以降の超過弾の生じたシリーズに科せられる。選手は超過した分を次に続く標的の中で減らして撃たなければならない。こうして発射弾数が要項で示された数を超えないようにする。
- ・この場合の採点要領は超過弾の得点を規程弾数に満たない標的に移す方式で行われる。したがって各標的には要項やルールに規定された弾数が撃ち込まれたことになる。
- ・どの弾痕を移すべきか明確でない場合、最も低い得点の弾痕を次の標的に移すかまたは最も高い得点の弾痕を前の標的に移さなければならない。こうしてこの選手が同点の順位決定での“カウントバック”で有利にならないようにする。
- ・ライフル三姿勢種目は1種目として考える。

※6.11.8

誤射（クロスファイア）

- 6.11.8.1 本射の誤射は0点として採点されなければならない。
- 6.11.8.2 選手が試射を別の選手の試射的に打ち込んだ場合、ペナルティは科せられない。
- 6.11.8.3 選手が試射を別の選手の本射的に打ち込んだ場合、撃ち込んだ選手は自分の第1シリーズの得点から2点の減点がペナルティとして科せられなければならない。
- 6.11.8.4 誤射を受けたことが確認され、標的上のどの弾痕がその選手のものか特定できなかった場合、その選手には特定のできなかった弾痕のうち最も高い得点を与えられなければならない。
- 6.11.8.5 本射的に規定数以上の弾痕がある場合、それらの弾痕が他の選手から撃ち込まれたものであることが確認できなかったときには、弾数に応じて、高得点の弾痕から順に無効とされなければならない。
- 6.11.8.6 選手が自分の標的上の弾痕を「否認したい」とときには、ただちに射場役員に申告しなければならない。
- 6.11.8.7 射場役員は問題の弾痕をその選手が撃っていないことを確認した場合、射場事故報告書と個票に必要事項を書き込み、その弾痕を無効としなければならない。
- 6.11.8.8 射場役員は問題の弾痕をその選手が撃っていないとする妥当な理由を確認できなかった場合、その弾痕をその選手の撃ったものとし、記録しなければならない。
- 6.11.8.9 次のような事由が弾痕を取り消す正当な理由と考えられなければならない。
 - ・記点係や射場役員がその選手が発射していなかったことを見ていて、そのことを確認した場合。
 - ・ほぼ同時に、隣接の2～3射座の選手、記点係、射場役員から誤射の報告があった場合。
 - ・300m種目でESTが使用される場合、誤射を受けた標的ではその誤射は記録されないが、誤射信号はコントロールセンターに表示される。誤射をした選手の弾の当たらなかった標的には誤射をしたことが表示され、0点が記録される。

6.11.9

妨害

射撃中に妨害を受けたと判断した選手は、銃口を下げ、ただちに射場役員またはジュリーに申告しなければならない。その際、他の選手を妨害することがないようにしなければならない。申告が正当であると判断された場合、その弾痕は取り消され、選手は再射することができる。申告が正当であると判断されなかった場合、その弾痕は採用されなければならない。選手はペナルティを科されることはない。

6.11.10

競技会の特則

- ・射座の床面に不正な有利を得るために物質をまくことは許されない。また、許可なく射座をめぐうことも許されない。
- ・床面にはがれないテープを張ったり消せない線を描くことは許されない。
- ・射場の設備や用具の交換や変更（例：台の大きさ、マットの切断、台の上に銃ケースや箱を重ねることなど）はできない。
- ・射場内の選手、役員を使うエリアは禁煙とする。同様に射場内の観客席も禁煙とする。
- ・競技エリア内での選手、コーチおよびチーム役員による携帯電話、トランシーバー、ポケットベルまたは同様の装置の使用は禁止される。すべての携帯電話等の電源は切られているかサイレントモードになっていなければならない。
- ・フラッシュ撮影は競技が完了するまで禁止される。
- ・携帯電話をサイレントモードにすること、禁煙であること、ストロボ撮影は競技が完了するまで禁止されていることを観客に知らせるための掲示が表示されていなければならない。

追 6.11.10.1

ビームライフル、ビームピストル競技会の報道の特則

6.12

選手およびチーム役員の行動ルール

6.12.1

ISSF選手権大会の開催中は、どのような種類のデモまたは政治的、宗教的、民族的宣伝は許可されない。

6.12.2

各チームには、そのチーム内の規律を保つ責任を負うチームリーダーをおかななければならない。選手をチームリーダーとして任命することはできる。チームリーダーは危害予防、競技会の効率的運営、スポーツマンシップの高揚に関し絶えず競技役員に協力しなければならない。

6.12.3

チームリーダーの責務

- ・指定時間内に担当役員に提出できるように必要な登録を正確に完成させる。
- ・大会要項に精通する。
- ・チームメンバーを指定時刻に指定射座に承認済みの用具を携えて出頭させ、射撃の準備をさせる。
- ・得点をチェックし、必要なら、抗議を行う。
- ・仮および正式の掲示、得点、放送に注意を払う。
- ・公式発表や公式依頼を受領し、チームメンバーにそれらを通達する。
- ・すべての公式業務においてチームを代表する。

6.12.4

選手の責務

- ・指定時刻に指定射座に承認済みの用具を携えて出頭し射撃の準備をする。
- ・指定された射座で隣接の射座の選手の邪魔をしないように射撃姿勢をとる。
- ・他の選手の動作の邪魔をしたり、不利な影響を与えないようにふるまう。その行為や行動が他の選手の妨げになっているとジュリーが判断した場合、その選手には、状況により、警告、減点、失格が与えられる。

6.12.5

競技中のコーチング

- 6.12.5.1 ライフルとピストル種目において、予選、本選、ファイナルを通して、選手が射撃線にいる間はどのような形のコーチングも禁止される。射撃線では選手はジュリーおよび射場役員とのみ話すことができる。練習中のコーチングは、他の選手の邪魔にならないなら、許される。
- 6.12.5.2 ショットガン種目では言葉によらないコーチングは許される。
- 6.12.5.3 選手が予選または本選中にコーチやチーム役員と話したい場合、選手は抜弾して銃の薬室を空けセフティフラッグを挿入して安全な状態にして射撃線に置かなければならない。選手はその旨を射場役員に通告した後でのみ射撃線を、他の選手の妨げにならないようにして、離れることができる。
- 6.12.5.4 コーチまたはチーム役員が射撃線にいる選手と話したい場合、選手が射撃線にいる間は選手に直接連絡したり話しかけたりしてはならない。チーム役員は射場役員またはジュリーの許可を得た上で選手を射撃線から呼び出してもらわなければならない。
- 6.12.5.5 チーム役員や選手がコーチングに関するルールに違反した場合、1回目は警告が出されなければならない。違反が繰り返された場合、選手の得点から2点が減点され、チーム役員は射座付近から離れなければならない。

6.12.6 ルール違反に対する罰則

- 6.12.6.1 ISSFルールに違反したり、射場役員やジュリーの指示に違反した場合、ジュリー団またはジュリーは次のようなペナルティを選手に科すことができる。

- ・ **警告**：警告はイエロー・カードを提示し、警告であることを選手がはっきりと認識できるように方法で行われなければならない。しかしながら、この警告を与える前に何らかのペナルティ（注意など）を与えておく必要はない。警告は射場事故報告書に記録され、個票に記入されなければならない。警告は個人のジュリーが与えることができる。

- ・ **減点**：得点からの減点は、少なくとも2名のジュリーにより、**減点**と書かれたグリーンカードを提示することで行われる。減点は射場事故報告書に記録され、プリンター用紙に印が付けられ、個票に記入されなければならない。減点は個人のジュリーが与えることができる。

- ・ **失格**：選手の失格はジュリーによって**失格**と書かれたレッドカードを提示することで行われる。競技後検査を合格できなかった選手は、その検査結果を一人のジュリーが確認した時点で、失格とされなければならない（6.7.9.3）。

その他の理由による失格はジュリーの多数決によって裁定された場合のみ科すことができる。

- ・ ファイナルでの失格については、選手はそのファイナルの最下位となるが、本選における得点は保証される。

- ・ ペナルティは口頭説明およびイエロー、グリーン、レッドカードの提示によって示される。ペナルティカードの大きさは約70mm×100mmとすべきである。

6.12.7 ジュリーによる反則の裁定

- ・ 明白なルール違反の場合、最初に、選手が違反を修正する機会を持つことができるように、**警告**が与えられなければならない。可能な限り、警告は練習時か準備および試射時間中に与えるべきである。選手がジュリーの規定した時間内に違反を修正しない場合、得点からの2点の減点が科せられなければならない。なおも選手が違反を修正しなかつ

た場合には、失格が科せられなければならない。

- ・ ルール違反を故意に隠蔽した場合、失格が科せられなければならない。
- ・ 事態の説明を求められた選手が故意に偽りの情報を与えた場合、2点の減点が科せられなければならない。悪質な場合、失格を科することもできる。
- ・ 選手が危険な方法で銃を扱うかまたは危険行為により安全規定に違反したと Jury が確認した場合、その選手は失格とされなければならない。

6.13

故障

6.13.1 故障の発生は引き金を引いたときに銃が弾を発射できなかったときである。

6.13.2 故障は許容できるかまたは許容できないかのどちらかに分けられる。

許容できる故障

- ・ 弾の不発。
- ・ 銃身内の停弾。
- ・ 引金機構が作動したうえでの不発射または誤作動。

許容できない故障

- ・ 選手が銃の機構をあけた場合。
- ・ 安全装置が解除されてなかった場合。
- ・ 弾が装填されていなかった場合。
- ・ 選手が引き金を引かなかった場合。
- ・ その故障の原因が選手により排除できたと合理的に判断できる場合。

6.13.3 銃または弾薬に故障が生じた場合、選手は修理して射撃を継続することができるが、その故障がピストルの許容できる故障の場合、Jury から交換の承認を得た上で、用具検査で承認されたもう一つのピストルで競技を続けることができる。ライフルが作動しなくなり容易に修理できない場合、選手は Jury から交換の承認を得た上で、用具検査で承認されたもう一つのライフルに交換し競技を続けることができる。

6.13.4 10m、50m、300mのライフル、ピストル種目の予選および本選ラウンドにおいて、故障後の銃の修理や交換のための時間延長は認められない。しかしながら Jury は許容できる故障の場合で銃を交換した後の追加の試射については認めることができる。

6.13.5 25mピストル種目における故障に関する特則は8.9.3である。

追 6.13.5-2 ビームライフル、ビームピストル種目における故障に関する特則

6.13.6 ファイナルにおける故障に関する特則は6.17.2、6.17.3、6.17.4、6.17.5である。

6.13.7 射場役員または Jury は故障が射場事故報告書に記録され、個票に記入されていることを確認しなければならない。

6.14

採点と成績手順

6.14.1 審査室は各種目、各射群、各ステージの終了後、可能な限り速やかに速報を射場の成績発表板に掲示しなければならない。

6.14.2 最終成績は、抗議時間が過ぎた後、メインスコアボードに発表されなければならない。

6.14.3 各選手権大会の公式成績本には次の事項が含まれなければならない。

- ・ 目次

- ・テクニカルデレゲートおよび主任ジュリー全員の署名のある成績保証のページ
- ・競技役員の一覧
- ・国別および種目別参加者一覧
- ・競技日程
- ・メダリストの氏名一覧
- ・国別獲得メダル数一覧
- ・新記録、タイ記録一覧
- ・ISSF基準の順に並べられた最終成績表（男子種目—ライフル300m, 50m, 10m、ピストル50m, 25m, 10m、; 女子種目—上記と同じ順；少年男子種目—上記と同じ順；少年女子種目—上記と同じ順）

6.14.3.1 成績表には各選手のISSF ID番号を取得した際に使用した氏名(姓は大文字、名は最初の文字のみ大文字)、Bib番号、国名(公式IOC略称)が記載されていなければならない。

6.14.3.2 必要に応じ成績表では以下の略号が使用されなければならない。

DNF	Did Not Finish (途中棄権)
DNS	Did Not Start (欠場)
DSQ	Disqualified (失格)
WR	New World Record (世界新記録)
EWR	Equaled World Record (世界タイ記録)
FWR	New Final World Record (ファイナル世界新記録)
EFWR	Equaled Final World Record (ファイナル世界タイ記録)
WRJ	New World Record Junior (世界ジュニア新記録)
EWJR	Equaled World Record Junior (世界ジュニアタイ記録)
OR	New Olympic Record (オリンピック新記録)
EOR	Equaled Olympic Record (オリンピックタイ記録)
FOR	New Final Olympic Record (ファイナルオリンピック新記録)
EFOR	Equaled Final Olympic Record (ファイナルオリンピックタイ記録)

6.14.4 各選手権大会後、ISSF本部に送付される公式成績表3部はISSF公式成績作製者により電子化されているのが望ましい。

6.14.5 審査ジュリーは審査室や紙標的が使われるときの25m標的線で行われる採点およびその他すべての作業について監督しなければならない。それは疑わしい発射弾をどのように採点するかを指揮し、得点を決定し、質問や得点に関する抗議を解決することである。最終的な公式成績表にはその正確性を確認した審査ジュリー団により証明され、サインをされなければならない。

6.14.6 ESTが使用される場合、多くの採点作業は電子化されるが、審査ジュリーは得点に関するすべての問い合わせや抗議を解決しなければならない。

6.14.7 不規則弾痕、誤射、ペナルティ、標的枠外弾痕(0点)、故障、時間延長、再射、無効弾などは、審査室で慎重に取り扱われるよう、射場役員やジュリーによって、すべて射場事故報告書、個票、プリンター用紙、(紙標的の場合は標的と個票)に明確に印を付け、記録され

なければならない。射場事故報告書（様式 I R）の完全なコピーは審査室に即座に運ばなければならない。各競技の終了時には、審査ジュリーはすべての故障による再計算と減点が正しく成績に反映されているかを確認するために成績表を点検しなければならない。

6. 14. 8 **得点からの減点**は必ず違反が起こったシリーズで行われなければならない。全般的な減点措置は、減点の生じたステージの第 1 シリーズの最も低い得点から行われなければならない。

6. 14. 9 I S S F 選手権大会において世界記録が生まれた場合、テクニカルデレゲートによって世界記録の確認手順の報告が作成され、I S S F 本部に送られなければならない。

6. 14. 10 **紙標的における採点手順**

次の種目で紙標的を使用する場合、標的は審査室で採点されなければならない。

- ・ 10 m、50 m および 300 m のライフル種目。
- ・ 10 m および 50 m のピストル種目
- ・ 射場において採点されたこれらの種目やステージの結果はすべて仮発表とみなされる。

6. 14. 10. 1 審査室で採点されるこれらの種目のすべての標的は安全な方法により施錠式容器に入れられて、射撃後速やかに射撃線から審査室まで運ばなければならない。

6. 14. 10. 2 審査室で採点される種目の本射的は番号が付けられなければならない、採点表と一致していなければならない。審査室は標的番号の正確を期する責任を負っており、各種目の標的が射場長や射場役員に渡される前に、その正確性を確認しなければならない。

6. 14. 10. 3 審査室では、次の採点手順が第二審査役員よってチェックされなければならない。

- ・ 各発射弾の得点の確認。
- ・ X 圏（インナーテン）の数の確認。
- ・ 得点の集計および減点の計算。
- ・ 各シリーズの得点と総合計の計算。
- ・ 各審査役員は、標的、記録用紙や成績表に頭文字をつけることによって、自分の仕事であることを認証しなければならない。

6. 14. 10. 4 審査作業とは別個に、審査ジュリーは最終的な成績発表に先立って、個人戦の 10 位までと団体戦の 3 位までの成績を点検しなければならない。

6. 14. 11 **発射弾の得点－紙標的**

6. 14. 11. 1 弾痕はすべて、その弾痕が位置する得点圏または圏線の高位点に接している場合の上位点として採点される。圏線のどの部分かにでも弾痕がふれている場合は、2 つの得点圏のうちの高位点が与えられる。このような判定は弾痕またはゲージのつばが圏線の外縁のどこかに触れている場合に下される。

この規則の例外はエアライフル標的の X 圏の判定に関するものである。

6. 14. 11. 2 問題のある弾痕の得点はゲージやその他の装置によって決定されなければならない。ゲージは常に標的を水平にした状態で弾痕に挿入されなければならない。

6. 14. 11. 3 2 発以上の弾痕が接近したり、穴の破れがひどかったり、重なり合っていてプラグゲージを正確に使うことが難しい場合は、平らで透明な素材に弾痕の正確な大きさが刻印されたゲージを用いて点数が決定されていなければならない。このような採点ゲージは圏線や弾痕の正確な位置を再現する際に助けとなる。

6. 14. 11. 4 2 人の審査役員の点数が一致しない場合、即座にジュリーによる裁定を求めなければならない

- い。
6. 14. 11. 5 プラグゲージはどの弾痕においても一度だけ、ジュリーによってのみ挿入される。このため、ゲージを使用した場合には、その標的上に採点役員により採点者の頭文字（イニシャル）と採点結果とともに印が付けられなければならない。
6. 14. 12 **25m種目採点手順－紙標的**
 ジュリーは採点手順を監督しなければならない。得点票（第二記点係が保持）は標的役員と標的線ジュリーがサインをしなければならない。得点票の原本は付加事項と最終記録を確認するために、安全な方法によって、審査室に送られなければならない。
6. 14. 12. 1 **スキッドショット（斜め弾痕）**
- ※ ・ 標的の回転中に発射された弾は命中弾として採点されてはならない。ただし水平方向の弾痕の大きさが25mリムファイア5.6mm（.22口径）弾では7mm、25mセンターファイアピストル弾では11mmを超えないもの（標的面上の鉛または弾頭の痕跡は計測に含めない）については有効弾として採点されなければならない。
 - ※ ・ 標的上の水平方向の弾痕の大きさはスキッドゲージで判定されなければならない。ゲージに刻まれた線の内側が標的の圏線に触れる場合、点数の高い方を得点として採点する。
6. 14. 12. 2 標的役員は射場が安全であるという合図を受け取ったら、すぐに標的を選手のほうに向けなければならない。標的役員は、少なくとも1名のジュリーを伴い、各標的の弾痕の得点を示し、射撃線にいる記点係にその得点を大きな声で伝えなければならない。記点係はその得点を個票と速報板に記録する。第二記点係は標的役員に同行し、標的役員が読み上げる得点を得点票に記録しなければならない。標的上の弾痕の位置と得点は、次の方法によって、選手と観客に表示されなければならない。
- ※ ・ 25mラピッドファイアピストルの場合、色の付いた弾着表示円板が用いられる。円板の大きさは直径30mmから50mmであるべきである。また、片面が赤色でもう一方の面は白色でなければならない。そして直径約5mm、長さ約30mmの心棒が両面の中心から出ているものであるべきである。5発シリーズごとに、得点が決定し、発表された後、標的役員によって、この円板が弾痕に差し込まれなければならない。
 - ・ 10点は選手に赤色面を向けて示されなければならない。9点以下は選手に白色面を向けて示さなければならない。この様にして弾痕が表示された後、シリーズの合計点は標的線近くの小型の得点板に表示され、第二記点係によって記録されなければならない。シリーズの合計点も読み上げられなければならない。その後で、円板は取り外されなければならない。そして標的は治痕される。
 - ・ 25mスタンダードピストル、25mピストル、25mセンターファイアピストルの場合得点と弾着の位置は指示棒で表示される。指示棒は約300mmの長さの柄の一端に直径30mmから50mmの円板が取り付けられたもので、その円板は片面が赤色でもう一方の面が白色となっている。標的役員はその弾の得点が10点なら赤色面を選手に向けて、9点以下なら白色面を選手に向けて円板を弾痕の上に置き、得点を読み上げなければならない。同じ標的に撃ち込まれた1シリーズの弾痕は、10点のものから読み上げられるべきである。シリーズの合計点は個々の弾痕が表示された後に、読み上げられるべきである。
 - ・ 試射も表示され、記録されなければならない。

6. 14. 12. 3 標的役員と射場役員は掲示板の結果と標的線で記録したものが同じであることを確認しなければならない。得点に関して意見が分かれた場合は速やかに解決しなければならない。
6. 14. 12. 4 弾痕が表示され、記録されたら、直ちに、
- ・ 標的は治療されて、次のシリーズの準備がなされなければならない(ラピッドファイアピストル種目や速射ステージ)。または、
 - ・ 次のシリーズのために標的が交換され、バックリングターゲットも治療されるか、交換されなければならない。または、
 - ・ 次の選手のため、使用済みの標的とバックリングターゲットは迅速に取り除かれ、新しい標的と新しいバックリングターゲットに交換されなければならない。
6. 14. 12. 5 完成した得点票は、選手が射場から出る前に、合計点の横に選手によってサインされなければならない。
6. 15 **同点の順位決定 (タイブレーク)**
- ※6. 15. 1 **300m、50m、25m、10m種目の個人競技の同点**
- 300m、50m、25m、10m種目における同点は次のルールによってすべて順位決定がなされる。
- ・ X圏(インナーテン)の数の多い者。
 - ・ 最終シリーズ10発の合計点(X圏の数や小数点得点ではない)の多い者。以下均衡が破れるまでシリーズを逆順にさかのぼる。
 - ・ 最終弾の得点(X圏を含む)の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
- ※
- ・ それでも同点が残し、ESTを使用していた場合、最終弾の小数点得点の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
 - ・ 以上をもってしても順位が決定しない場合、ファイナル進出者の決定に関わる同点でなければ、当該選手は同順位とし、選手の姓のアルファベット順に記載されなければならない。
 - ・ 10mエアライフルと50mライフル伏射種目の予選または本選ラウンドで小数点得点を使用した場合、同点の順位決定は小数点得点によるシリーズカウントバック、小数点得点による1発ごとのカウントバックによって決定される。
- 追 6. 15. 1-2 **ビームライフル、ビームピストル種目の個人競技の同点に関する特則**
6. 15. 2 **ファイナルを行わない25m種目の同点**
- ・ 上位3位までで2名以上の選手が同点の場合、順位決定はシュートオフによって決められなければならない(25m種目のシュートオフルールを参照)。
 - ・ 複数の順位で同点となった場合、初めに最も下位の順位決定が行われ、続いて順に上位の順位決定が行われる。
6. 15. 3 **ショットガン種目の同点 (9. 15 参照)**
6. 15. 4 **ランニングターゲット種目の同点 (10. 12 参照)**
6. 15. 5 **ファイナルのあるオリンピック種目の同点**
- 本選ラウンドの結果、ファイナル進出の可否が問われる順位の設定は個人種目の同点の順位

決定ルール 6.15.1 によって決定される。

6.15.6 **ファイナルのない 25m 種目の同点シュートオフルール**

同点の選手は、ジュリーの抽選によって、本選を行った射場で、新しい射座を割り当てられる。もし使用できる射座数より多くの選手がいるならば、射撃順序も抽選によって決められる。

6.15.6.1 シュートオフにおける準備時間は 2 分間。

種 目	試射シリーズ	シュートオフシリーズ
25m ラピッドファイアピストル	4 秒射 1 シリーズ	4 秒射 1 シリーズ
25m ピストル	速射ステージ	速射ステージ
25m センターファイアピストル	5 発 1 シリーズ	5 発 1 シリーズ
25m スタンダードピストル	150 秒射 5 発 1 シリーズ	10 秒射 1 シリーズ

6.15.6.2 1 回のシュートオフを行っても順位決定ができなかった場合、2 回目の 1 シリーズのシュートオフを行わなければならない。シュートオフは均衡が破れるまで続けられる。

6.15.7 **団体競技の同点**

団体競技の同点の順位決定はチーム全員の結果を合計して、個人競技の同点の順位決定の手順を適用し決められなければならない。

6.16 **抗議（プロテスト）と上訴（アピール）**

6.16.1 すべての抗議と上訴は ISSF ルールに従って裁定される。

6.16.2 書面抗議および上訴は ISSF 抗議用紙（様式 6.18 参照）で提出されなければならない。

※6.16.3 **抗議料**には次の金額を支払わなければならない。

・ 抗議 50.00 ユーロ

・ 上訴 100.00 ユーロ

・ 抗議料の支払い義務は完成した抗議用紙がジュリーに届けられたときに発生する。抗議料はできるだけ速やかにジュリーまたは組織委員会に支払われなければならない。

・ 抗議料は抗議または上訴が認められた場合は返却されなければならないが、却下された場合には組織委員会が収納する。

6.16.4 **口頭抗議（バーバル プロテスト）**

6.16.4.1 選手またはチーム役員は、競技会の状況、裁定、行動に関する抗議を射場役員またはジュリーに、即座に口頭で行う権利を持つ。次に示すような事態に抗議することができ、抗議料の支払義務が発生する。

・ 選手またはチーム役員が競技会の進行が ISSF ルールや大会要項に従っていないと判断した場合。

・ 選手またはチーム役員が、射場役員またはジュリーの裁定や行動に同意できない場合。

・ 選手が他の選手、射場役員、観客、報道関係者、その他の人々や原因によって干渉や妨害を受けた場合。

・ 射場設備の故障、不測の事態の解決、その他の原因により長時間射撃が中断した場合。

・ 射撃時間が短すぎる等、射撃時間が不規則な場合。

- 6.16.4.2 射場役員およびジュリーは口頭での抗議については即座に対応しなければならない。抗議を受け取った射場役員およびジュリーは事態解決のため直ちに行動をするか、またはジュリー全員による採決に委ねることができる。そのような場合、射場役員およびジュリーは必要に応じて一時的に射撃を中断することができる。
- 6.16.5 **書面抗議（リトゥン プロテスト）**
選手またはチーム役員は、口頭抗議に対する処置や裁定に同意できない場合、ジュリーに書面をもって抗議することができる。選手またはチーム役員には口頭抗議をすることなく書面抗議を行う権利も持つ。すべての書面抗議はその問題が起きてから20分以内に適切なジュリーに提出されなければならない。抗議料の支払義務は発生する。
- 6.16.6 **得点に関する抗議（スコアリング プロテスト）**
得点や標的上の弾痕の数に関する審査ジュリーの裁定は最終のものであり上訴することはできない。
- 6.16.6.1 **得点に関する抗議時間**
すべての得点または成績に関する抗議は速報が射場スコアボード（6.4.2）に掲示されてから10分以内提出されなければならない。この抗議締切時刻は、速報掲示時に、射場スコアボード上に示されなければならない。得点に関する抗議の提出場所は公式プログラムに掲載されていない。
- 6.16.6.2 **電子標的の得点に関する抗議**
選手がESTに表示された得点に対して抗議する場合、その抗議が次弾または次シリーズ（25m種目）の発射前か、最終弾の場合、その発射後3分以内であれば受理される。この時間制限はロール紙またはゴムバンドの送り不良または標的故障の場合には適用されない。
 - ・ 得点に関する抗議が行われた場合、選手はその競技の最後にもう1発の追加射撃を要求される。抗議が認められ、抗議に係る弾痕の正しい得点を決めることができなければ、このエキストラショットの点数を得点とすることができる。
 - ・ 審査ジュリーが抗議に係る弾痕の得点と表示された得点が小数点以下二位まで一致していると判定した場合、抗議は却下されなければならない。
 - ・ 0点表示または表示なし以外の得点に関する抗議が認められなかった場合、抗議に係る弾痕の得点から2点が減点され、抗議料が支払われなければならない。
 - ・ チーム役員や選手は抗議をした弾痕の処理について知る権利を持つ。
 - ・ 予選または本選ラウンドにおいて、50mESTで9.5点以上の得点が表示された弾痕の得点については抗議することはできない。
 - ・ ファイナルにおいて、得点や発射弾数に関する抗議は許されない(6.17.1.6)。
- 6.16.6.3 **紙標的の得点に関する抗議**
 - ・ 紙標的が使用される場合、採点や集計に誤りがあると思った選手またはチーム役員はその得点に関し抗議をすることができるが、その得点がゲージを用いて採点された点数であった場合、それは最終的なものであり、抗議することはできない。得点に関する抗議はそれぞれの弾に対して行うことができる。別の弾に関して抗議する場合にはそれぞれに対して抗議料の支払い義務が生じる。
 - ・ 得点に関する抗議はゲージが用いられてない採点または公表された順位表や得点表に誤

記があった場合のみ行うことができる。

- ・抗議料は抗議が行われた時点で支払われなければならない。
- ・紙標的が使用され審査室で採点されている場合、チーム役員または選手は抗議に係る弾痕を見る権利を持つが、標的に触れることは許されない。

6.16.7 上訴（アペール）

ジュリーの裁定に同意できない場合、上訴することのできないファイナル抗議ジュリーの裁定を除いて、上訴ジュリーに上訴できる。上訴はジュリーの裁定が発表されて30分以内にチームリーダーまたは代表者によって書面で提出されなければならない。**上訴ジュリーの裁定は最終である。**

6.16.8 書面抗議および上訴に関する**すべての裁定のコピー**はテクニカルデレゲートの最終報告書とともに、適切な部門や技術委員会で再検討するため、テクニカルデレゲートによってISSF事務局長に送付されなければならない。

※6.17 オリンピックのライフルおよびピストル種目のファイナル

6.17.1 ファイナル競技の全般手順

※6.17.1.1 **ファイナルへの進出** ファイナル進出者を決める本選として各オリンピック種目はフルプログラム(3.3.2)で行われなければならない。本選における上位6名が進出する25mラピッドファイアピストル男子を除き、本選における上位8名がファイナルへ進出する。

6.17.1.2 **ファイナルの射座とB i b 番号** ファイナルの射座は本選の順位に従って割り当てられ、新しいB i b 番号(1~8または1~6)が配布される。射座はA、B、C、D、E、F、G、Hと表示され、予備的はR 1、R 2と表示されるべきである。

6.17.1.3 **出頭時刻と開始時刻** ファイナルの開始時刻は、射場長が本射の第一シリーズまたは第一発目の号令をかける時刻とする。選手は、開始時刻の少なくとも30分前にはファイナルのプレパレーションエリアに出頭しなければならない。遅刻した選手には、2点もしくは2ヒットの減点が本射第一シリーズまたは第一発目に科せられる。その際、選手はファイナルに使用する十分な数の弾薬およびすべての用具、競技用の服装、表彰式用のユニフォームを持参しなければならない。ジュリーは全ファイナリストの出頭確認とその氏名、国籍が正しく集計システムとスコアボードに記入されていることを確認しなければならない。ジュリーは選手が出頭したら、この時間内に可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。

6.17.1.4 **遅刻** 出頭時刻から10分後までにプレパレーションエリアに出頭していないファイナリストはファイナルに参加することはできず、DNSが表示されファイナルにおける最初の脱落選手として記録される。その際のファイナルにおける第一エリミネーションは第7位または25mRFPでは第5位の選手の決定から始まる。

6.17.1.5 **採点** 本選の成績はファイナル進出の権利を選手に与えるが、得点の持ち越しはされない。ファイナル得点はルールに従い0点から始まる。減点やペナルティは違反のあった本射シリーズまたは本射弾の得点に科せられなければならない。ただし、その得点は0を下回ることはない[例：3-1(減点)=2、0-1(減点)=0]。

6.17.1.6 **10mおよび50m種目のファイナルにおける故障** 本射1発の間に発生した許容される故障(6.13.2)については、故障の修理または銃の交換のために最大1分間を与えられ、そ

の後選手は再射を命じられる。3発または5発シリーズで許容される故障が発生した場合で、故障の修理や銃の交換が1分以内に行えるならば、そのシリーズで発射されている弾による得点は集計され、選手は修理や交換に要した（1分を超えない）時間分だけ延長時間をもらってそのシリーズを継続することが許される。

- 6.17.1.7 **得点に関する抗議** ファイナルにおいて、得点や発射弾数に関する抗議は許されない。
- 6.17.1.8 **電子標的に対する不満** 試射中に、標的が正しく作動していないと不満を表明した選手は、標的に対して1発撃ち込むように命じられる。標的がその弾に対して正しく作動した場合は、ファイナルはそのまま継続される。正しく作動しない、またはロール紙やゴムロールの送り不良による場合ならば、射場長は全ファイナリストに対し“STOP... UNLOAD（ストップ アンロード）”の号令を発し、故障した標的の選手を予備的に移動させるか、または故障した標的を修理または交換しなければならない。その選手に正常な標的が手配され次第すぐに、射場長は全ファイナリストに対し2分間の準備時間を与え、その後準備および試射時間を再開させる。本射の第一シリーズまたは第一発目の“START（スタート）”の号令の後は標的故障に関する不満は受け付けられない。想定外の0点表示に関する不満の表明があった場合、 Jury はとるべき適切な行動を決定しなければならない。
- ※6.17.1.9 **ファイナル射場の備品** ファイナル射場にはファイナリストが見ることのできるLCDスコアボードシステムとカウントダウン時計および音響システムが設備されてなければならない。 Jury および射場役員、コーチと脱落した選手のために椅子が用意されていなければならない。
- 6.17.1.10 **ファイナル役員** ファイナルの進行および監督は以下の役員配置によって行われることとなっている。
- ・ **射場長** ISSFのAまたはBライセンスをもった経験豊富な射場長がファイナルを進行しなければならない。
 - ・ **競技 Jury** 競技 Jury はファイナルの進行の監督を行う。主任 Jury は自分自身または Jury メンバーから一名の担当 Jury を任命しなければならない。
 - ・ **審査 Jury** 審査 Jury のうち一名がファイナルにおける成績決定の過程を監督するためにその場にいないなければならない。
 - ・ **ファイナル抗議 Jury** 上訴 Jury の一名と担当 Jury および別の一名の競技 Jury がファイナル中に生じたあらゆる抗議に対して裁定を下すために、テクニカルデレゲートおよび主任 Jury から任命される。この裁定に対する上訴は許されない。
 - ・ **射場役員 (RO)** 一名の経験豊富な射場役員がファイナル中の銃の安全のチェックと故障の申告の取り扱いについて射場長を補佐する。
 - ・ **技術役員** 公式記録提供者はESTの準備と操作、結果のディスプレイへの表示および技術的トラブルに関して Jury とともに解決を図るために技術役員を任命する。
 - ・ **アナウンサー** ISSFまたは実行委員会によって任命された役員が射場長とともに放送を担当し、ファイナリストの紹介、得点の発表、観客への情報の提供に責任を持つ。
- 6.17.1.11 **ファイナリストの紹介** 試射時間または試射シリーズの後、全ファイナリストは銃を置き、ファイナリストがそのままの姿勢で留まるライフルの三姿勢種目のファイナルを除き、聴衆に向かうように振り向かななければならない。アナウンサーは各ファイナリストをその氏名、

国籍とそれぞれの短い情報によって紹介する。アナウンサーは射場長と担当ジュリーの紹介も行う。

6.17.1.12 **ファイナルの手順とルール** このルール (6.17) でカバーできない事態には、ISSF GTR または各種目のルールが適用される。

注) 時間進行がガイドラインとしてこのルールの中で示されているが、正確な時間進行についてはISSF本部にある“Commands and Announcements for Finals”をチェックすること。

6.17.1.13 **メダリストの紹介** 射場長が“RESULTS ARE FINAL (リザルト アー ファイナル)”と宣言した後、アナウンサーは即座にアナウンスによってメダリストを紹介しなければならない。

「金メダリストは、得点〇〇点、〇〇代表、△△△△選手です。」

「銀メダリストは、得点〇〇点、〇〇代表、△△△△選手です。」

「銅メダリストは、得点〇〇点、〇〇代表、△△△△選手です。」

※6.17.2 **ファイナルー10mエアライフル、エア・ピストル男子、女子および50mピストル男子、ライフル伏射男子**

ファイナルの様式	ファイナルは制限時間150秒で行われる3発の本射シリーズ2回(50mライフル伏射の場合は制限時間100秒)とそれに続く、号令によって進行される制限時間50秒(50mライフル伏射は30秒)の14発の本射によって構成される。最下位ファイナリストの脱落は8発目のあとから開始され、2発の本射が終わるごとに行われ、金および銀メダリストが決まるまで続けられる。ファイナルの本射は合計20発となる。
採点	ファイナルにおける採点は0.1点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。 本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。
用具準備時間 (20分前)	選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の20分前には、銃や用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。
ライフル ウォームアップ時間 (18分前)	射場長は開始時刻の18分前に選手を“ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。 2分後、射場長は“EIGHT MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (エイト ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。 準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サー

	<p>ティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>8分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ライフルを置いて、紹介に備えて観客の方に振り返る。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>ピストル ウォームアップ時間 (13分前)</p>	<p>射場長は開始時刻の13分前に選手を“ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。</p> <p>2分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイトイング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>準備と試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはピストルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ピストルを置いて、紹介に備えて観客の方に振り返る。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>ファイナリストの 紹介 (5分前)</p>	<p>ファイナリストの銃のチェックの後、アナウンサーは選手、射場長、担当ジュリーをルール 6.17.1.11 に従って紹介する。</p>
<p>最終試射時間 (ライフルのみ)</p>	<p>紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”と号令をかける。 30秒後、射場長は“FINAL SIGHTING TIME... START (ファイナル サイトイング タイム スタート)”と号令する。</p> <p>試射時間終了の30秒前に射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>2分間たったら、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。このとき技術役員は本射に向け、標的の表示をクリアしなければならない。</p>
<p>最終準備時間 (ピストルのみ)</p>	<p>紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”と号令をかける。</p> <p>標的およびスコアボードは本射に向けクリアされてなければならない。</p>

<p>※ 第一ステージ 2×3発 制限時間：150秒 (伏射は100秒) 各シリーズ</p>	<p>60秒後、射場長は本射第一シリーズの号令をかける。</p> <p>射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。ファイナリストは150秒で3発を撃つ。残り時間を秒単位で表示するカウントダウン時計がファイナリストの標的表示装置に提示されるべきである。もしもカウントダウン時計を射座のファイナリストが見ることができない場合は、射場長はシリーズごとに残り時間を示す“TEN (テン)”と“FIVE (ファイブ)”をアナウンスしなければならない。</p> <p>150秒後(伏射は100秒後)または全ファイナリストが3発を撃ち終わったら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>150秒後(伏射は100秒後)または全ファイナリストが3発を撃ち終わったら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>アナウンサーは再び選手とその成績についてコメントをし、この後1発ずつのステージに変わり、2発ごとに最下位のファイナリストが脱落していくことを説明する。</p>
<p>第二ステージ 単発 14×1発 制限時間：50秒 (伏射は30秒) 各1発</p>	<p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション ショット ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>1発の制限時間は50秒(伏射は30秒)。</p> <p>50秒(伏射は30秒)後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかけ、アナウンサーはファイナリストとその得点についてコメントする。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション ショット ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>この手順を第二十発目(第二ステージ14発)まで繰り返す。</p> <p>第二十発目が終了したら、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。射場役員は銃の薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>

エリミネーション	<p>ファイナリストが第八発目を撃ち終わった後、最下位のファイナリストは脱落させられる（第八位）。以下、次のように最下位のファイナリストが脱落してゆく。</p> <p>第十発目の後・・・第七位 第十二発目の後・・・第六位 第十四発目の後・・・第五位 第十六発目の後・・・第四位 第十八発目の後・・・第三位（銅メダリストの決定） 第二十発目の後・・・第二位と第一位（銀、金メダリストの決定）</p> <p>脱落したファイナリストは、抜弾し、セフティフラッグを挿入した銃をその場に置き、射座から離れなければならない。射場役員は銃が安全な状態になっていることを確認しなければならない。</p>
同点の順位決定	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。</p> <p>同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。</p>
ファイナルの終了	<p>残った2名のファイナリストが第二十発目を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。</p> <p>アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストをアナウンスする（6.17.1.13）。</p>

※6.17.3 **ファイナルー50mライフル三姿勢男子、女子**

ファイナルの様式	<p>ファイナルは各姿勢（膝射、伏射、立射の順）15発の号令による本射で構成される。ファイナルは各シリーズ200秒の膝射5発のシリーズを3回行うことから始まる。姿勢の切換えおよび試射の7分間の後、ファイナリストは各シリーズ150秒の伏射5発のシリーズを3回行う。次に姿勢の切換えおよび試射の9分間の後、各シリーズ250秒の立射5発のシリーズを2回行う。この2回の立射シリーズを終了した時点で下位2名のファイナリストが脱落する。ファイナルは1発50秒の立射5発となり、残った選手で1発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った2名の選手が最終弾を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは45発撃つことになる。</p>
採点	<p>ファイナルにおける採点は0.1点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。</p> <p>本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。</p>
用具準備時間	<p>選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の20分前には、ライフルや用</p>

<p>(20分前)</p>	<p>具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。姿勢の変更に伴う銃の付属品や用具は射座内に置いておくことのできる1個の箱(サイズ未定)の中に入れておかなければならない。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。</p>
<p>準備および試射時間 膝射 5分間 (12分前)</p>	<p>射場長は開始時刻の12分前に選手を“ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。この号令の後、ファイナリストはライフルを扱ったり、膝射姿勢をとったり、据銃、照準練習ができる。ただしセフティフラッグを引き抜いたり、空撃ち練習はできない。</p> <p>2分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この号令の後、ファイナリストはセフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ファイナリストの紹介に備える。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>ファイナリストの紹介 (2分前)</p>	<p>ファイナリストの銃のチェックの後、アナウンサーは選手、射場長、ジュリーをルール 6.17.1.11 に従って紹介する。選手はファイナリストの紹介の間、膝射姿勢を維持することができるが、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けたり、手をあげてくれることを期待している。これに加えて、姿勢の切換えと試射の時間にもそれぞれのファイナリストの写真や情報が提示されるべきである。</p>
<p>※ 膝射 3×5発 制限時間：200秒 各シリーズ</p>	<p>紹介の直後、射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>ファイナリストは200秒で5発を撃つ。</p> <p>残り時間を秒単位で表示するカウントダウン時計がファイナリストの標的表示装置に提示されるべきである。もしもカウントダウン時計を射座のファイナリストが見ることができない場合は、射場長はシリーズごとに残り時間を示す“TEN (テン)”と“FIVE (ファイブ)”をアナウンスしなければならない。</p> <p>200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP</p>

	<p>(ストップ)”と号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>アナウンサーは順位について付け加えのコメントをする。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>姿勢の切換えと試射 伏射 7分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“SEVEN MINUTES CHANGEOVER AND SIGHTING TIME... START (セブン ミニッツ チェンジオーバー アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは伏射に向けライフルを扱ったり、伏射姿勢をとったり、セフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射を終えてのファイナリストの順位や得点についてコメントをする。アナウンサーはこの時間を利用して各ファイナリストの人物紹介も行える。</p> <p>姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>7分後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。</p>
<p>※ 伏射 3×5発 制限時間：150秒 各シリーズ</p>	<p>30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p>

	<p>ファイナリストは150秒で5発を撃つ。 同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが伏射5発のシリーズを3回終了するまで繰り返される。 第三シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。 射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>姿勢の切換えと試射 立射 9分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“NINE MINUTES CHANGEVER AND SIGHTING TIME... START (ナイン ミニッツ チェンジオーバー アンド サइटینگ タイム スタート)”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは立射に向けライフルを扱ったり、立射姿勢をとったり、セフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。 姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射、伏射を終えてのファイナリストの順位や得点についてコメントをする。 姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。 9分後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。 技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。</p>
<p>※ 立射 2×5発 制限時間：250秒 各シリーズ 5×1発 制限時間：50秒 各1発</p>	<p>30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける 5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 ファイナリストは250秒で5発を撃つ。 同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが立射5発のシリーズを2回終了するまで繰り返される。 射場長の第二シリーズの“STOP (ストップ)”の号令の後、第八位と第七位のファイナリストが脱落する。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。 アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション ショット ロード)”と号令をかける。 5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 1発の制限時間は50秒。制限時間の残り時間については引き続き、各選手が確認し続けられるようにしなければならない。 50秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“STOP (ストップ)”と</p>

	<p>号令をかける。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。</p> <p>射場長とアナウンサーはこの号令とアナウンスの手順を、金メダリストが決まる最終弾まで繰り返す。</p>
エリミネーション	<p>立射の第二シリーズが終了した後、ファイナリストが下位のファイナリスト2名は脱落させられる（第四十発目 第8位と第7位）。以下、次のように1発終了するごとに最下位のファイナリストが脱落してゆく。</p> <p>第四十一発目の後・・・第6位 第四十二発目の後・・・第5位 第四十三発目の後・・・第4位 第四十四発目の後・・・第3位（銅メダリストの決定） 第四十五発目の後・・・第2位と第1位（銀、金メダリストの決定）</p> <p>脱落したファイナリストは、抜弾し、セフティフラッグを挿入したライフルをその場に置き、射座から離れなければならない。射場役員は薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
同点の順位決定	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。</p> <p>同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。</p>
ファイナルの終了	<p>残った2名のファイナリストが最終弾を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。</p> <p>アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストをアナウンスする（6.17.1.13）。</p>
姿勢の切換え	<p>選手は、射場長が姿勢の切換えおよび試射時間の“START（スタート）”の号令をかけるまで、次の姿勢への切換えに入ってはならない。1回目の違反には警告が与えられる。2回目の違反には次のシリーズの第一発目に2点の減点が科せられる。</p>

※6.17.4 **ファイナルー25mラピッドファイアピストル男子**

※ ファイナルの様式	<p>ラピッドファイアピストル男子のファイナルは4秒射の5発シリーズのヒットオアミススコアによる8シリーズで構成され、4シリーズ目から最下位のファイナリストの脱落が開始され、金および銀メダリストの決まる8シリーズまで続けられる。</p>
標 的	<p>25mESTの5的グループ3つを使用しなければならない。それぞれの5的グループに2名ずつファイナリストが割り当てられる。射座は本選成績従って、左から順に割り当てられる。各標的グループには1.50m×1.50mの射撃位置（射座）が設定される。各標的グループに割り当てられた2名のファイナリストは射撃位置の左右の両端で射撃姿勢をとらなければならない。そのとき</p>

	それぞれの選手は、6.4.11.7に示された射撃位置の左右に描かれた線に少なくとも片足が触れていなければならない。
採 点	<p>ファイナルでの採点はヒットオアミススコアであり、各ヒットは1ヒット、各ミスは0ヒットとして数えられる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の9.7点の範囲となる。</p> <p>ファイナルにおけるヒット数の合計により順位が決められる。同点の場合はシュートオフの成績によって順位を決定される。</p>
出頭時刻 30分前と15分前	選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。 Juryは選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の15分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていなければならない）も含まれる。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。
準備時間と試射 10分前	<p>射場長は開始時刻の10分前に“A T H E L E T E S T O T H E L I N E（アスリート トウ ザ ライン）”という号令をかける。1分後、射場長は“P R E P A R A T I O N B E G I N S N O W（プレパレーション ビギンズ ナウ）”という号令により2分間の準備時間を開始させる。</p> <p>2分後、射場長は“E N D O F P R E P A R A T I O N（エンド オブ プレパレーション）”の号令をかける。</p> <p>試射シリーズは4秒射5発で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“F O R T H E S I G H T I N G S E R I E S , L O A D（フォー ザ サイティング シリーズ ロード）”の号令をかける。この号令の30秒後、射場長は各標的グループの左側の選手の苗字を読み上げる“（FAMILY NAME OF ATHLETE #1, FAMILY NAME OF ATHLETE #3, FAMILY NAME OF ATHLETE #5）”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。</p> <p>この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“A T T E N T I O N（アテンション）”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディポジションをとらなければならない（8.7.2）。7秒後、緑ランプが点灯する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する（標的の復旧時間）。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>技術役員が標的の準備ができたことを知らせてきたら、射場長は各標的グループの右側の選手の苗字を読み上げる“（FAMILY NAME OF ATHLETE #2, FAMILY NAME OF ATHLETE #4, FAMILY NAME OF ATHLETE #6）”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。</p> <p>この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“A T T E N T I O N（アテンション）”の号令をかけ、4秒射1シリーズが進行する。4秒間の射撃時間</p>

	<p>の後、赤ランプが10～14秒間点灯する（標的の復旧時間）。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。全ファイナリストの試射シリーズが完了した後、選手は抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、銃身や弾倉に弾が残ってないことを確認しなければならない。</p>
<p>ファイナリストの紹介 5分前</p>	<p>ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.11に従い、選手、射場長、担当ジュリーを紹介する。</p>
<p>号令と射撃の詳細手順</p>	<p>ファイナルのそれぞれの本射シリーズは4秒射5発のシリーズで構成される。それぞれのシリーズは競技に残っている全ての選手が一人ずつ順に撃っていく。射撃は全てのシリーズにおいて左から右の順に行われる。</p> <p>選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS（テイク ユア ポジションズ）”の号令をかける。</p> <p>選手紹介から30秒後、射場長は“LOAD（ロード）”の号令をかける。“LOAD（ロード）”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する（8.7.6.2はファイナルでは適用されない）。本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD（ロード）”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD（ロード）”の号令の後、選手は照準練習、腕の振り上げ、空撃ちを、同じ5的の標的グループについている選手が射撃している間を除いて、行うことができる。射撃をしている選手と同じ5的の標的グループの右射座の選手は、その間、準備のためにピストルを手には取ることができないが、照準練習と腕の振り上げ、空撃ちはできない。左射座の選手は撃ち終わった後、右射座の選手が射撃している間は、ピストルを置いて射撃位置から下がっているかまたは動かないようにしなければならない。</p> <p>“LOAD（ロード）”の号令の1分後、射場長は“[選手1の苗字]”と最初の選手を呼び出す。名前が呼ばれた後、その選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。</p> <p>最初の選手の名前を呼んで15秒後、射場長は“ATTENTION（アテンション）”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。最初の選手はレディーポジションを取らなければならない。7秒後に緑色ランプが点灯する。4秒射の後、10～14秒間（標的の復旧時間）赤色ランプが点灯する。この10～14秒間に、射場長はそのシリーズの得点の発表をする（例：4ヒッツなど）。</p> <p>最初の選手の得点が発表された直後、技術役員が標的の準備ができた合図をする。射場長は“[選手2の苗字]”と声をかける。15秒後、“ATTENTION（アテンション）”の号令がかけられ、そのシリーズの手順が開始される。シリーズ後、射場長が得点を発表する。</p>

	<p>他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、順に撃ち続ける。</p> <p>全ての選手が1シリーズを撃ち終わった後、15～20秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。</p> <p>第2シリーズのために、射場長は“[選手1の苗字]”と声をかけ、この手順を全ファイナリストが4シリーズを撃ち終えるまで続ける。</p>
※ エリミネーション	<p>全てのファイナリストが第4シリーズを撃ち終わった後、最下位の選手が脱落する(6位)。この後、次のようにシリーズ終了ごとに一人ずつ選手が脱落していく。</p> <p>5シリーズ後・・・5位 6シリーズ後・・・4位 7シリーズ後・・・3位(銅メダリストの決定) 8シリーズ後・・・2位と1位(銀および金メダリストの決定)</p> <p>脱落した選手は、立ち去る前に、ピストルを抜弾(弾倉をはずし薬室を開放しセフティフラッグを挿入する)し、ベンチに置かなければならない。射場役員は薬室が開放され、弾倉がはずされ、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
同点の順位決定	<p>脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加のタイブレッキングシリーズ(4秒射)を同点が解消されるまで行う。どのタイブレッキングシリーズも左側の選手から開始される。</p> <p>タイブレッキングシリーズでは、射場長はすぐに“[該当選手の苗字]”の号令をかけて最初の同点の選手の名前を呼び、その後は通常の射撃手順が行われる。アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p>
※ ファイナルの完了	<p>2名の残ったファイナリストが第8シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL(リザルツアーファイナル)”と宣言する。</p> <p>アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストの発表を行う(6.17.1.13)。</p> <p>ファイナリストやコーチが射撃線からピストルを動かす前に、射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入され、弾倉がはずされ、弾倉からも抜弾されていることを確認するためにピストルをチェックしなければならない。ピストルは射撃線から去る前にケースに収納されていなければならない。</p>
遅発 (LATE SHOTS)	<p>選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全5的を撃ちきれなかった場合、オーバータイムショットまたは未発射弾1発につき1ヒットの減点はそのシリーズのスコアに科せられる。その遅発は“OT”と表示される。</p>
READYポジション (8.7.2、8.7.3)	<p>ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得点から2ヒット減点されなければならない(グリーンカード)。ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返</p>

	<p>された場合、選手は失格とされなければならない(レッドカード)。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティや失格を科す前に、少なくとも2名の競技 Jury が、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示(旗をあげるなど)をしなければならない。</p>
<p>故障 (8.9)</p>	<p>試射中の故障については申告も再射もできない。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確認しなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを再射しなければならない。その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために15秒与えられる。これ以外の故障に対しては再射は許されず、表示されたヒット数が加算される。</p> <p>もしその故障が許容できないものであったなら、そのシリーズの得点から2ヒットの減点が科せられなければならない。</p>

6.17.5 ファイナルー 25mピストル女子

<p>ファイナルの様式</p>	<p>25mピストル女子のファイナルは、セミファイナルと2つのメダルマッチの2つのステージで構成される。すべての採点はヒットオアミスによる。セミファイナルは速射5シリーズ(5発×5)により構成される。8名のファイナリスト全員がセミファイナルに参加する。メダルマッチはセミファイナルで1位と2位になった選手が金メダルと銀メダルを争い、3位と4位になった選手が銅メダルを争う。それぞれのメダルマッチはシリーズごとに高いヒット合計数を得た選手が2ポイント、同点の場合はそれぞれに1ポイントずつが与えられるポイント制で行われる。それぞれのメダルマッチで7ポイントを先取したものが勝者となる。</p>
<p>標 的</p>	<p>25mESTの5的グループ2つを使用しなければならない。セミファイナルではそれぞれの5的グループに4名ずつ、各グループの1、2、4、5的、6、7、9、10的に、ファイナリストが割り当てられる。</p> <p>セミファイナル、メダルマッチにおける射座は本選成績従って、左から順に割り当てられる。</p>
<p>採 点</p>	<p>ファイナルは両ステージとも0点から始める。採点はヒットオアミススコアであり、ヒットゾーンにあたった弾、1発につき1ヒットが与えられる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の10.3点の範囲となる。</p> <p>セミファイナルにおけるヒット数は加算され、各選手の最終成績は5シリーズのヒット合計数により順位が決められる。同点の場合は同点の順位決定ルールが適用される。</p> <p>メダルマッチにおいてはシリーズごとのポイント制となる。そのシリーズで高いヒット合計数をあげた選手が2ポイントを獲得し、同点の場合は両選手に1ポイントずつが与えられる。7ポイントを先取したものが勝者となる。両選手が同じシリーズで7ポイントを獲得し同点となった場合、同点が解消されるま</p>

	で追加のシリーズを行う。
出頭時刻 30分前と15分前	選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。 Juryは各選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の15分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃(セフティフラッグが挿入されていなければならない)も含まれる。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。
コール 準備時間と試射 10分前	射場長は開始時刻の10分前に“ ATHELETES TO THE LINE (アスリート トウ ザ ライン)”という号令をかける。1分後、射場長は“ PREPARATION BEGINS NOW (プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。 2分後、射場長は“ END OF PREPARATION (エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。 試射シリーズは通常の速射5発の手順(8.7.6.4)で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“ FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD (フォー ザ サイティング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の後、選手は弾倉に弾を入れピストルに装着し、射撃の準備をすることができる。 “ LOAD (ロード)”の号令の60秒後、射場長は“ ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディポジションをとらなければならない(8.7.2)。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“ STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令をかける。 試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。“ STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令後、ファイナリストは抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
ファイナリストの紹介 5分前	ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.11に従い、選手、射場長、担当Juryを紹介する。
第一競技ステージ セミファイナル	選手の紹介の直後、射場長は“ TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。 30秒後、最初の本射シリーズが開始される。射場長は“ LOAD (ロード)”の号令をかける。選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2はファイナルでは適用されない)。 本射第1シリーズの開始前に1回だけ“ LOAD (ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことがで

	<p>きる。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY (ファースト シリーズ... レディー)”と号令をかけ、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。</p> <p>“READY (レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に緑色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令後、アナウンサーはファイナリストの順位と成績をコメントする。</p> <p>アナウンス終了30秒後に、射場長は“NEXT SERIES... READY (ネクスト シリーズ... レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかける。</p> <p>この手順をファイナリストが5シリーズを撃ち終えるまで続ける。</p> <p>第5シリーズ終了後そして2位と4位に同点がなければ、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令をかける。射場役員は薬室が開放され、弾倉がはずされて抜弾されており、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。選手は射座にピストルを置いて射座から下がらなければならない。</p> <p>技術役員がメダルマッチのための標的を準備するために、約2分間の休止がとられる。</p> <p>この間にアナウンサーは金メダルマッチおよび銅メダルマッチに進出した4人の選手と脱落した4人の選手を紹介する。</p>
エリミネーション	<p>ファイナリストが第5シリーズを撃ち終わった後、4人の下位選手が脱落する5位から8位までの順位はセミファイナルのヒット数の合計によって決められる。セミファイナルで3位と4位の選手は銅メダルマッチに進出し、1位と2位の選手は金メダルマッチに進出する。</p>
同点の順位決定	<p>セミファイナルを終えて、4位または2位において2名以上の選手が同点(合計ヒット数)あった場合、その同点の選手は追加のタイブレーキングシリーズ(速射5発)を同点が解消されるまで行う。</p> <p>タイブレーキングシリーズでは、射場長はすぐに該当選手たちの苗字を呼び、タイブレーキングシリーズを通常の手順で撃つように号令をかける。</p> <p>アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p> <p>セミファイナルにおけるその他の順位については、最終シリーズの成績からのシリーズカウントバックによって決められる。それでも同点が解消できない場合は、同点の選手の本選順位に従って最終順位が決められる。</p>
第二競技ステージ	<p>メダルマッチは技術役員が標的の準備が整った合図をしたときに開始される。</p>

メダルマッチ	<p>2名の選手は各標的グループの中央の標的（3的および8的）の射座に入る。射座の決定は本選の順位によって決まり、高順位であった選手が左の射座に入る。</p> <p>メダルマッチは、射場長の“MS [選手の苗字] AND MS [選手の苗字]... TAKE YOUR POSITIONS (ミズ [選手の苗字] アンド ミズ [選手の苗字]... テイク ユア ポジションズ)”の号令で開始される。</p> <p>30秒後、射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。“LOAD (ロード)”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY (ファースト シリーズ... レディー)”と号令をかける。その後、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をすることができる。</p> <p>“READY (レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に緑色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令後、アナウンサーは「2対0で〇〇選手がリードしています」のような、得点のアナウンスをする。また、アナウンサーはこのメダルマッチの2名の選手の状況についてコメントすることができる。</p> <p>アナウンス終了30秒後に、射場長は“NEXT SERIES... READY (ネクスト シリーズ... レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかける。</p> <p>この手順を、どちらかの選手が7ポイント先取またはそれ以上で相手と1ポイント以上の点差ができるまで続ける。勝者が決まったら、射場長は“STOP... UNLOAD... RESULTS ARE FINAL (ストップ... アンロード... リザルト アー ファイナル)”の号令をかける。射場役員は薬室が開放され、弾倉がはずされて抜弾されており、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p> <p>アナウンサーは銅メダリストを紹介する。</p> <p>選手や役員が金メダルマッチのための準備をするために、約2分間の休止がとられる。</p> <p>同様の手順が金メダルマッチで繰り返される。</p>
ファイナルの完了	<p>射場長が“RESULTS ARE FINAL (リザルト アー ファイナル)”と、金メダルマッチで宣言した後、アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストの発表を行う。</p>
READYポジション (8.7.2)	<p>競技ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズのヒット数から2ヒット減点されなければならない(グリーンカード)。ファイナルでは警告は与えられない。これ</p>

	が繰り返された場合、選手は失格とされなければならない(レッドカード)。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティや失格を科す前に、少なくとも2名の競技 Jury が、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示(旗をあげるなど)をしなければならない。
故障 (8.9)	試射中の故障については申告も再射もできない。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確認しなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを完射しなければならない。選手はシリーズの完射の準備のために15秒与えられる。各ファイナルステージにおいて1回のみ許容できる故障によるシリーズの完射が許される。これ以上の故障に対する完射は許されず、表示されたヒット数が加算される。

追 6.17.5-2 ファイナルー 10mビームライフル

追 6.17.5-3 ファイナルー 10mビームピストル

追 6.17.5-4 ファイナルー 25センターファイアピストル

6.17.6 **ファイナルにおける抗議**

- ・抗議は選手またはコーチの挙手によって即座に行われなければならない。
- ・すべての抗議はファイナル抗議 Jury によって即断されなければならない(3.12.3.7、6.16.7 および 6.17.1.10.d)。ファイナル抗議 Jury の裁定は最終であり、上訴はできない。
- ・ファイナルにおける抗議が採用されない場合、2点または2ポイントの減点が科せられる。ファイナルでは抗議料は課せられない。

6.17.7 **表彰式**

6.17.8 金、銀、銅メダリストを讃える表彰式は各ファイナル後できるだけ迅速に、3.5.8に従って、行われることになる。表彰式の進行のISSF基準は、ISSF本部に用意されている、ファイナル射場と表彰式の認定ガイドラインに示されている。

6.17.9 **ファイナル世界記録**

25mピストル女子とショットガン種目を除き、すべてのオリンピック種目のファイナル世界記録を設定する。

※6.18 **書類様式**

ISSF選手権大会を実施するにあたり必要な以下の書類の様式を次ページより掲載する。

- ・抗議用紙(様式P)
- ・上訴用紙(様式AP)
- ・射場事故報告書(様式IR)
- ・得点抗議処理書(様式CN)
- ・25mラピッドファイアピストル男子故障採点票(様式RFPM)
- ・25mスタンダードピストル男子故障採点票(様式STD P)
- ・ドレス/広告コード違反警告書(様式DC)

6.19 索引 注:索引は日本語において編集されている。

10mエア・ピストル—紙標的	6.3.4.6
10mエアライフル—紙標的	6.3.4.3
10m屋内射場	6.4.1.6
10m射場—射座基準	6.4.10
10m射場—照度測定	6.4.14
10m射場—標的装置	6.4.10
10m種目—エアライフルおよびエア・ピストル種目の特則	6.11.2
1台の標的の故障	6.10.9.2
25m／50m屋内射場	6.4.3.3
25m／50m精密ピストル—紙標的	6.3.4.5
25mEST—コントロールシート	6.3.6.2
25m回転標的の基準	6.4.12
25m電子標的	6.4.13
25mピストル、センターファイアピストル、スタンダードピストル—使用標的	6.3.4.4
25mピストル、センターファイアピストル、スタンダードピストル—使用標的	6.3.4.5
25mラピッドファイアピストル—紙標的	6.6.4.4
25mラピッドファイアピストル—紙標的	6.3.4.4
25mラピッドファイアピストル—射座割	6.6.6.2
25mラピッドファイアピストル種目—標的グループ	6.4.11.3
25m屋外射場—屋外部分	6.4.3.3
25m射場—セクション（グループ）	6.4.11.4
25m射場—基準	6.4.11
25m射場—射座の広さ	6.4.11.7
25m射場—射座の用具	6.4.11.10
25m射場—射座間のスクリーン	6.4.11.8
25m種目—スキッドショット（斜め弾痕）	6.3.5.11
25m種目—採点手順（紙標的）	6.14.12
25m種目—採点手順—ジュリーの監督	6.9.8
25m種目—採点手順—示点	6.9.8
25m種目—採点手順—第2記点係	6.9.9
25m種目—採点手順—得点の提示	6.14.12.2
25m種目—射場で公式採点される標的	6.9.10
25m種目—得点票	6.8.15
25m種目—標的	6.3.4.5
25m標的—標的の文字	6.4.3.6
25m標的—回転と時間の装置	6.4.12.2
25m標的—回転の同時性	6.4.12.1
25m標的—回転の方向	6.4.12.1
25m標的—回転時間	6.4.12.3

25m標的-硬いバックキングボード	6.4.12.4
25m標的-振動	6.4.12.1
25m標的-正対時間	6.4.12.3
25m標的-正対時間	6.4.12.2
25m標的-不正確な正対時間	6.4.12.2
300mライフル-紙標的	6.3.4.1
300m屋外射場-屋外部分	6.4.3.3
300m射場-射座基準	6.4.8
300m電子標的-誤射(クロスファイア)	6.11.8.9
50m/300mの予選における団体得点	6.6.6.1
50mライフル-紙標的	6.3.4.2
50m屋外射場-屋外部分	6.4.3.3
50m射場-射座基準	6.4.9
Bib番号(スタート番号)	6.7.8
ISSF選手権大会の主催	6.1.4
ISSFルールの適用	6.1.2
ISSFルールの方針と目標	6.1.1
ISSF選手権大会の運営	6.1.4
ISSF本部による紙標的の認証	6.3.3
STOP後の射撃の再開	6.2.3.5
X圏-エア・ピストル:外線ゲージ	6.3.5.5
X圏-エアライフル:外線ゲージ	6.3.5.5
安全通則	6.2.1
アンロード/ストップの号令後の発射	6.2.3.4
イレギュラーショット(不規則弾痕)-10m、50m、300m	6.11.7
エキストラショットモニターへの表示	6.10.9.3
エキストラショットモニターへの不表示	6.10.9.3
エキストラショット最終弾の取り消し(競技弾数の超過弾)	6.10.9.3
エキストラショット照準した撃発の指示	6.10.9.3
エントリー-最終エントリー	6.6.3
オリンピック種目のファイナルにおける同点-シュートオフ	6.15.5
カウントバック-標的上の超過弾の得点の移動	6.11.7.2
紙標的-10m種目	6.3.4
紙標的上の超過弾	6.11.7.2
くじ引き-射座割	6.6.6
ゲージ-22口径	6.3.5.3
ゲージ-25mセンターファイアピストル	6.3.5.1
ゲージ-300mライフル	6.3.5.2
ゲージ-4.5mm外線-10mAP	6.3.5.9

ゲージ-4.5mm外線-10mA R/R T	6.3.5.7
ゲージ-4.5mm内線	6.3.5.4
ゲージ-エア・ピストルX圏	6.3.5.6
ゲージ-エアピストルゲージによるエアライフルX圏の採点	6.3.5.5
ゲージ-テクニカルデレゲートによる検査	6.4.1.10
ゲージの挿入	6.14.11.5
圏線への接触	6.14.11.1
号令-ロード/スタート-アンロード/ストップ	6.2.3.1
コーチング	6.12.5
コントロールシート-25mEST	6.3.6.5
事実と反する情報	6.12.7
試射から本射への切り替え	6.10.4
射座-水平方向の許容差	6.4.6.2
選手の責任-用具	6.7.1
射場成績表	6.4.2
射場における他人への安全	6.2.1.4
銃ケース	6.11.10
ジュリーが射場にいること	6.8.7
ジュリー-ジュリーによる時間延長	6.8.13
ジュリー-ジュリーの任命	6.1.4.1
ジュリーによる検査-エキストラショット	6.10.9.3
ジュリーによる検査とチェック	6.7.9.1
ジュリーによる時間延長-5分以上の中断	6.11.5.2
ジュリーによる時間延長-事故報告書への印付け	6.11.5.2
ジュリーによる時間延長-遅すぎる示点と標的交換	6.11.4
ジュリーによる時間延長-別の射座への移動	6.11.5.2
ジュリーの、ジュリーベストの着用	6.8.2
ジュリーの任務と職務	6.8
ジュリー-服装の再検査の裁定	6.7.9.3
ジュリー-ルールの知識と実施	6.1.2
ジュリー-過半数	6.8.7
ジュリー-監督-用具、銃器、姿勢の検査	6.8
ジュリー-競技ジュリー-通則	6.8
ジュリー-競技前の検査とチェック	6.8.3
ジュリー-裁定	6.8.8
ジュリー-選手への助言と助力	6.8.4
ジュリー-選手またはチーム役員	6.8.12
ジュリー-助言と監督	6.8
ジュリー-責任	6.8.13

準備時間中の風旗の交換	6. 4. 4. 6
照準練習	6. 11. 1. 1
照準練習エリア	6. 2. 4. 1
すべてのライフル種目と10m&50mピストル種目のルール	6. 11. 1. 1
セフティフラグ	6. 2. 2. 2
選手、役員、観客エリア	6. 4. 1. 5
代表者会議	6. 6. 4
チームリーダー	6. 6. 4
チームリーダーの責任	6. 12. 3
中断	6. 11. 5
テクニカルデレゲート：ゲージの検査	6. 4. 1. 10
テクニカルデレゲート：射座割の監督	6. 6. 6
テクニカルデレゲート：世界記録／オリンピック記録の報告	6. 14. 9
テクニカルデレゲートによる電子標的の検査	6. 3. 2. 8
テクニカルデレゲートによる紙標的の検査	6. 3. 3
テクニカルデレゲートによる射場の検査	6. 4. 1. 10
テクニカルデレゲートー電子標的のチェック	6. 3. 2. 8
手数料-抗議とアピール	6. 13. 3
電子標的の検査	6. 3. 2. 8
電子標的の故障10mと50m	6. 10. 9
特別な規格変更	6. 4. 1. 11
時計-ファイナル射場	6. 4. 3. 5
バックングカード-50m/300m	6. 3. 6. 2
バックングターゲット（副的）-25m	6. 3. 6. 4
バックングターゲット（副的）-50m	6. 3. 6. 3
バックングターゲット、バックングカード、コントロールシート	6. 3. 6. 6
表彰式-選手の服装	6. 7. 6. 2
表彰式-ジュリーの服装	6. 7. 6. 3
標的運搬の責任	6. 9. 6
標的及び標的基準	6. 3
標的-設置	6. 4. 1. 1
標的線	6. 4. 5. 4
標的の取り扱い-10m紙標的	6. 11. 3
標的の取り扱い-50m紙標的	6. 11. 4
ファイナル-10mエアライフルとエア・ピストル種目	6. 17. 2
ファイナル-1発の超過発射	6. 11. 2. 4
ファイナル-1個の標的の故障-10m/50m種目	6. 17. 1. 8
ファイナル-1個の標的の故障-25m種目	6. 10. 9. 2
ファイナル-25mピストル女子	6. 17. 5

ファイナルー25mピストル女子種目	6. 17. 5
ファイナルー 2 5 mピストル種目	6. 17. 5
ファイナルー 2 5 mラピットファイアピストル	6. 17. 4
ファイナルー25mラピットファイアピストル種目	6. 17. 4
ファイナルー 2 5 mラピットファイアピストル種目	6. 17. 4
ファイナルー50m伏射と 5 0 mピストル種目	6. 17. 2
ファイナルー50mライフル 3 姿勢男子と女子の種目	6. 17. 3
ファイナルーS T A R T前またはS T O P後の発射ー 1 0 m／ 5 0 m	6. 11. 1. 1
ファイナルーアナウンス-10m/50m種目	6. 17. 2
ファイナルーアナウンス-25mピストル	6. 17. 5
ファイナルーアナウンス-25mラピットファイアピストル	6. 17. 4
ファイナルーアナウンス時間-2 点の減点	6. 17. 1. 3
ファイナルーエアガンにおけるガスの放出： 2 点の減点	6. 11. 2. 1
ファイナルー試射の号令 10m/50m伏射と 50mピストル	6. 17. 2
ファイナルー試射の号令 25mピストル女子	6. 17. 5
ファイナルー試射の号令 25mラピットファイアピストル	6. 17. 4
ファイナルー試射の号令 50 ライフル 3 姿勢	6. 17. 3
ファイナルー銃器の故障 10mと 50m	6. 17. 1. 6
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障	6. 10. 9. 1
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障ー 1 0 m／ 5 0 m種目	6. 10. 9
ファイナルーすべてのファイナル標的の故障ー 2 5 m種目	6. 10. 9
ファイナルー電子標的の不满	6. 17. 1. 8
ファイナルーファイナリストの紹介	6. 1. 1. 11
ファイナルーファイナリストの人数ー 1 0 m／ 5 0 m種目	6. 17. 1. 1
ファイナルーファイナリストの人数ー 2 5 m種目	6. 17. 1. 1
ファイナルーファイナルにおける抗議-得点抗議	6. 17. 1. 7
ファイナルーファイナルにおける抗議-裁定	6. 17. 6
ファイナルーファイナルの遅れ	6. 11. 6. 4
ファイナルーファイナル前の引金検査	6. 17. 1. 3
ファイナルーファイナル前の選手と用具の検チェック	6. 17. 1. 3
ファイナルー開始時刻	6. 17. 1. 3
ファイナルー競技の号令ー 1 0 m／ 5 0 m種目	6. 17. 2
ファイナルー競技の号令ー 5 0 m 3 姿勢	6. 17. 3
ファイナルー競技手順	6. 17. 1. 12
ファイナルー空撃ちの禁止	6. 11. 2. 2
ファイナルー公式プログラムに印刷された出頭時刻	6. 6. 1. 5
ファイナルー公式結果の発表	6. 17. 1. 13
ファイナルー最終公式結果	6. 17. 1. 13
ファイナルー紙標的ー 1 0 m／ 5 0 m	6. 14. 10

ファイナルー射座割ー10m/50m	6.17.1.2
ファイナルー射座割ー25mピストル	6.17.1.2
ファイナルー射座割ー25mラピッドファイアピストル	6.17.1.2
ファイナルー射場への出頭	6.17.1.3
ファイナルー銃器の故障 25mファイナル(ルール8.9と8.9.2)	6.17.1.6
ファイナルー準備時間ー10m/50m	6.17.2
ファイナルー準備時間ー10m/50m	6.17.3
ファイナルー準備時間ー25m	6.17.4
ファイナルー準備時間ー25m	6.17.5
ファイナルー同点ー10m/50m伏射、ピストル種目	6.17.2
ファイナルー同点ー3姿勢	6.17.3
ファイナルー得点	6.17.1.5
ファイナルー標的ー10m/50m	6.17.2
ファイナルー標的の観客への表示ーEST 10m/50m	6.17.2
ファイナルー本選ーフルコース	6.17.1.1
フラッシュ撮影ー禁止の掲示	6.10.10
プリンター用紙にサインしなかった場合ー電子標的	6.10.4
ペナルティカード	6.12.6.1
本射開始後のガスの放出	6.11.2.2
メインスコアボード	6.4.2
モニターー視界	6.10.9.3
ルールの理解	6.1.2
ルール違反と罰則規定	6.12.7
ルール違反と罰則規定ージュリーの行動/検査	6.12.7
ルール違反の罰則	6.12.6
ルール違反ーペナルティ	6.12.6
ロード/スタートの号令前の発射	6.2.3.4
ロール紙やゴムバンドの異状	6.10.6
安全	6.2
安全ー選手、役員、観客	6.2.1.3
安全ー射場	6.2.1.2
右利き	6.1.2
雨、日光、風の防御	6.4.1.5
屋内射場の照度測定	6.4.14
屋内射場の要求照度	6.4.14
屋内射場の要求照度	6.4.14
監的役員ー紙標的	6.9.7
機能確認射場	6.4.11.11
記点係の装備	6.9.4

記点係－紙標的	6. 9. 4
技術役員－電子標的	6. 10. 1
疑問の残る弾痕－コンピュータに記録の残ってない弾痕	6. 10. 9. 3
疑問の残る弾痕－採点	6. 10. 9. 3
許容できない故障	6. 13. 2
競技エリア	6. 11. 10
競技ルール	6. 11. 1
競技会スケジュール－ジュリーによるチェック	6. 8
競技前練習（前日練習）	6. 6. 2. 2
競技中の用具、銃器、姿勢の検査	6. 8. 5
競技役員	6. 9
空気／CO ₂ シリンダー－交換と再充填	6. 11. 2. 3
空気／CO ₂ シリンダー－選手の責任	6. 7. 7. 1
空気銃弾－1発のみ装填	6. 11. 2. 4
空撃ち	6. 2. 4. 1
空撃ち－定義	6. 2. 4. 1
携帯電話	6. 11. 10
携帯電話－禁止の表示	6. 11. 10
撃ちきれなかった弾	6. 11. 1. 2
結果の独自確認	6. 14. 10. 4
圏線への接触	6. 14. 11. 1
減点	6. 12. 6. 1
減点－STARTの号令前の発射	6. 11. 1. 1
減点－得点	6. 14. 7
減点－虚偽の申告	6. 12. 7
減点－準備時間での圧縮気体の放出	6. 11. 2. 1
減点－標的上の超過弾	6. 11. 7. 2
減点－用具検査未承認の銃器や用具	6. 11. 6. 1
減点－用具検査用紙（コントロールカード）の不提示	6. 11. 6. 5
故障－許容できる故障、許容できない故障	6. 13. 2
故障	6. 13
故障－選手に落ち度のない場合－時間延長	6. 13. 4
誤射（クロスファイア）	6. 11. 8
誤射－300m電子標的	6. 11. 8. 9
誤射－誤射を受けたことが確認できたときの処置	6. 11. 8. 4
誤射－誤射を受けたことが確認できなかったときの処置	6. 11. 8. 4
誤射－採点	6. 11. 8. 1
誤射－試射を他の選手の試射的に撃った場合	6. 11. 8. 2
誤射－試射を他の選手の本射的に撃った場合	6. 11. 8. 3

誤射－選手が撃ってないことを射場役員が確認できた場合	6. 11. 8. 7
誤射－射場役員が確認できなかった場合	6. 11. 8. 8
誤射－弾痕の取り消し	6. 11. 8. 7
誤射－弾痕の否認	6. 11. 8. 6
交換と充填－ガスおよびエアシリンダー	6. 11. 2. 3
公式行事への適切な服装－服装規定	6. 17. 1. 3
公式練習	6. 6. 2. 1
抗議－ジュリーによる取り扱い	6. 8. 10
抗議と上訴	6. 16
抗議－口頭	6. 16. 4
抗議時間	6. 16. 6. 1
抗議－書面抗議	6. 16. 5
抗議－得点の抗議－審査ジュリー	6. 16. 6
左利き	6. 1. 2
最終成績	6. 14. 3
裁定－ジュリー	6. 8. 8
裁定－ジュリー－ I S S Fルールでカバーできない事項	6. 8. 11
残り時間	6. 11. 1. 2
紙標的	6. 3. 4
紙標的－ 1 0 m種目： 1 0発シリーズごとに後方に渡す	6. 11. 3
紙標的－ 1 0 m種目： 標的交換	6. 11. 3
紙標的－ 5 0 mライフル／ピストル	6. 11. 4
紙標的－ 5 0 mライフル／ピストル： 遅すぎる示点と標的交換	6. 11. 4
紙標的－ 5 0 mライフル／ピストル： 標的交換	6. 11. 4
紙標的－ 標的操作 10mエアライフルとエア・ピストル	6. 11. 3
紙標的－ 標的操作 5 0 mライフル／ピストル	6. 11. 4
紙標的用ゲージ	6. 3. 5. 4
試射中の不満	6. 17. 1. 8
時計－射場内	6. 4. 3. 5
耳の保護	6. 2. 5
式典－選手の出席	6. 17. 1. 3
失格	6. 12. 6. 1
失格－ファイナル	6. 12. 6. 1
失格－安全規則違反	6. 12. 7
射撃の準備－選手	6. 12. 4
射撃線	6. 4. 3. 2
射撃線－表示と計測	6. 4. 5. 4
射座－一般基準－ 3 0 0 m、 5 0 m、 1 0 m	6. 4. 7
射座割－ 1 0 m種目	6. 6. 6

射座割ー25mラピッドファイアピストル	6.6.6.2
射座割ーTDによる監督	6.6.6
射座割ー屋外射場の予選種目	6.6.6.1
射座割ー原則	6.6.6
射座割ー射場の制限事項	6.6.6
射座割ー団体種目ー2射群以上	6.6.6
射座割ー同条件	6.6.6
射座ー備品	6.4.11.10
射座ー物質	6.11.10
選手およびチーム役員の行動ルール	6.12
選手の資格	6.7.8.3
選手の責任ー用具	6.11.6.5
選手ー射撃準備	6.10.4
射場および標的基準	6.4
射場の通信設備	6.4.2
射場基準	6.4.1
射場共通基準	6.4.3
射場長ー義務と役割	6.9.1
射場内全部の標的の故障	6.10.9.2
射場内全部の標的の故障ー競技手順	6.10.9.1
射場役員ーISSFルールの知識と効力	6.9.2
射場役員の責任ーLOAD/START-UNLOAD/STOP	6.2.3.1
射場役員ー義務と役割	6.9.2
射場役員ー責任	9.6.2
種目や姿勢における超過弾	6.11.7.1
銃器／弾薬の故障	6.13
銃器ケース	6.2.2.8
銃器のテスト（機能テスト）	6.4.11.11
銃器の取り扱いーSTOP後	6.2.3.5
銃器の取り扱いー競技中の銃器の移動	6.2.2.1
銃器の取り扱いー自己規律	6.2.2
銃器の修理と交換	6.13.3
銃器の修理と交換ー延長時間無、追加試射	6.13.4
銃器や用具の改変	6.11.6.2
銃器や用具の再検査	6.7.9.2
銃器を置く（手から離す）	6.2.2.4
準備時間25m種目ーシュートオフ	6.15.6.1
準備時間ー試射的、競技前チェック	6.11.1.2
準備時間ー銃器の取り扱い、空撃ち、照準練習	6.11.2.1

照度測定－10m屋内射場	6.4.14
上訴	6.7.9.3
審査 Jury による裁定	6.14.5
審査 Jury による裁定	6.10.3.1
審査 Jury の裁定	6.14.5
審査 Jury－採点の監督	6.8
審査 Jury－電子標的	6.10.3
審査室－義務と手順	6.14.5
成績表	6.14.3
成績表－記載事項	6.14.3.1
成績表－略号	6.14.3.2
宣伝	6.12.1
組織委員会	6.1.4.2
装填－2発以上の装填	6.11.2.4
速報（成績の中間発表）	6.14.1
他の選手に対する不当な有利	6.7.2
団体種目における選手の交代	6.6.5
団体種目の同点	6.15.7
弾痕の位置表示や得点記録に対する不満（EST）	6.10.8
弾痕の取り消し	6.11.8.9
弾痕の取り消し－選手は撃っていないことの確認	6.11.8.9
弾痕の取り消し－他の選手からの申告	6.11.8.9
弾痕の表示や記録の故障の記載（EST）	6.10.9.3
弾薬の装填	6.2.3.2
弾薬の装填－弾倉の使用	6.2.3.3
男子種目	6.1.2
遅刻	6.11.6.4
超過弾の得点の移動－カウントバック	6.11.7.1
超過弾の得点の移動－複数弾痕	6.11.7.2
超過弾の得点の移動－標的上の超過弾	6.11.7.2
追加の試射－故障	6.13.4
通則－TR	6.1
電子標的	6.3.2.1
電子標的（EST）	6.3.2
電子標的－射場役員による本射切り換え	6.10.4
電子標的－選手の責務	6.10.4
電子標的における得点に関する抗議	6.10.7
電子標的の検査手順	6.3.2.8
透明ゲージの使用	6.14.11.3

同点の順位決定ーカウントバックルール	6. 15. 1
同点の順位決定ーファイナルのない25m種目	6. 15. 2
同点の順位決定ー個人	6. 15. 1
同点の順位決定ー通則	6. 15
同点ー個人	6. 15. 1
同点ー個人ー満射	6. 15. 1
得点の決定	6. 14. 10. 3
得点圏の寸法（外側の直径）	6. 3. 3. 5
非公式練習	6. 6. 2. 3
標的のナンバリング	6. 4. 3. 6
標的の一般規格	6. 3. 1
標的の運搬	6. 14. 10. 1
標的の高さ	6. 4. 6. 1
標的紙	6. 3. 3
標的紙	6. 3. 3. 4
標的治痕係ー紙標的ー25m	6. 14. 12. 2
標的上の超過弾ー2回	6. 11. 7. 2
標的上の超過弾ー3回以上	6. 11. 7. 2
標的上の超過弾ー3姿勢ー1種目	6. 11. 7. 2
標的ー振動しない	6. 4. 12. 1
標的ー水平方向の許容差	6. 4. 6. 2
標的線	6. 4. 3. 2
標的線ジュリーー25m	6. 8. 15
標的役員ー紙標的	6. 9. 4
標的役員ー紙標的ー25m	6. 9. 9
標的役員ー電子標的	6. 10. 2
標的枠と射座の番号	6. 4. 3. 6
服装規定ー適切な服装	6. 7. 6
別の射座への移動	6. 10. 9. 3
報道との関係	6. 4. 2
報道との関係：設備ー補助ー協力	6. 4. 2
妨害	6. 11. 9
未承認の銃器や用具	6. 11. 6. 1
迷彩生地	6. 7. 6
目の保護	6. 2. 6
目隠し板（ブラインダー）	6. 7. 8. 4
予選の公式	6. 6. 6. 1
予備射座への移動	6. 10. 9. 3
様式	6. 18

用具、銃器、姿勢の検査	6.8
用具と弾薬	6.7
用具検査－安全に関する	6.2.1
用具検査－記録	6.7.7.1
用具検査－ジュリーの監督	6.7.7.1
用具検査－用具と銃への認可済み印	6.7.7.1
用具検査－器具、ゲージ	6.5
用具検査－器具-厚さ	6.5.1
用具検査－器具-固さ	6.5.2
用具検査－器具-靴底柔軟性	6.5.3
用具検査後の改変	6.7.7.1
用具検査－再検査	6.7.9.2
用具検査－選手およびチーム役員への通知	6.7.7.1
用具検査－選手の義務	6.7.7.1
用具検査－不当な有利	6.7.1
用具検査－不当な有利	6.7.2
用具検査－有効期間	6.7.7.1
用具検査－用具の使用前の検査	6.7.7
用具検査用紙（コントロールカード）－用具検査用紙の不提示	6.11.6.5
練習－通則	6.6.2